# 【取組事例集】

# 【取組事例集】　目　次

## １　農林水産物・食品の輸出


・株式会社オカキブラザーズフーズ（滋賀県竜王町）　・・・・・・・・ 事例　1
・株式会社ゆめるめ（大阪府大阪市）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　2
・和歌山県農業協同組合【もも】（和歌山県和歌山市）　・・・・・・・ 事例　3
・和歌山県農業協同組合【かき】（和歌山県和歌山市）　・・・・・・・ 事例　4


## ２　環境保全型農業


・株式会社オーガニックnico（京都府京都市）　・・・・・・・・・・・ 事例　5
・株式会社エチエ農産（京都府京丹後市）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　6
・ビオ・ラビッツ株式会社（京都府京丹後市）　・・・・・・・・・・・ 事例　7
・成田ふぁーむ（大阪府能勢町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　8
・株式会社だいずデイズ（兵庫県神戸市）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　9
・株式会社 Awaji Nature Farm（株式会社折兼（愛知県）と共同）
（兵庫県淡路市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　10
・甲良集落営農連合協同組合（農事組合法人サンファーム法貴寺）
（滋賀県甲良町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　11
・有限会社もりかわ農場（滋賀県長浜市）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　12
・RedRice 自然農園株式会社（京都府木津川市）　・・・・・・・・・・ 事例　13
・有限会社山口農園（奈良県宇陀市）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　14
・株式会社オーガニックファームたにぐち（兵庫県新温泉町）　・・・ 事例　15


## ３　生産性向上（生産基盤の強化）


・滋賀県子実コーン組合（滋賀県）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　16
・ＪＡならけん西和花卉部会（奈良県平群町）　・・・・・・・・・・・ 事例　17
・ＪＡならけん西吉野柿部会（奈良県五條市）　・・・・・・・・・・・ 事例　18


## ４　食育・地産地消


・大阪府立農芸高等学校（大阪府堺市）　・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　19
・みつばち BunBun クロスケの大原野げんき畑（京都府京都市）　・・ 事例　20
・株式会社うおいち（大阪府大阪市）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　21
・大阪府立富田林中学校・高等学校（大阪府富田林市）　・・・・・・ 事例　22
・せいか食育劇団もくもぐ（京都府精華町）　・・・・・・・・・・・・ 事例　23
・京阪百貨店（大阪府守口市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　24


## ５　ＧＡＰの推進


・乾農園（大阪府富田林市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　25

・株式会社 KANSO テクノス河南いちご農場（大阪府河南町）　・・・・ 事例　26

## ６　企業等の農業参入

・株式会社いけうち（兵庫県西脇市）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　27
・兵神機械工業株式会社（兵神ファーム）（兵庫県播磨町）　・・・・ 事例　28
・福喜農園株式会社（京都府京丹後市）　・・・・・・・・・・・・・・ 事例　29
・一志アグリシステム合同会社（京都府亀岡市）　・・・・・・・・・・ 事例　30
・井上株式会社 THE610BASE（ムトベース）（京都府福知山市）　・・・ 事例　31
・近鉄不動産株式会社　近鉄ふぁーむ花吉野（奈良県大淀町）　・・・ 事例　32
・株式会社メタルヴィレッジ（滋賀県草津市）　・・・・・・・・・・ 事例　33

## ７　新規就農・担い手、担い手育成

・ロックファーム京都株式会社（京都府久御山町）　・・・・・・・・ 事例　34
・シーズファーム株式会社　鶴　龍郎　氏（京都府京丹後市）　・・・ 事例　35
・いちごの縁Ｆ（エッフェ）　藤原　大輔　氏（奈良県生駒市）　・・ 事例　36
・寺田農園株式会社（奈良県葛城市）　・・・・・・・・・・・・・・ 事例　37
・みなべ梅郷クラブ（和歌山県みなべ町）　・・・・・・・・・・・・ 事例　38
・丹波ワイン株式会社　岡市昌樹　氏（京都府京丹波町）　・・・・・ 事例　39

## ８　農業との多様な関わり

・京都おぶぶ茶苑合同会社（京都府和束町）　・・・・・・・・・・・・ 事例　40
・小川地域棚田振興協議会（和歌山県紀美野町）　・・・・・・・・・ 事例　41
・農事組合法人ジョイファーム山中（滋賀県竜王町）　・・・・・・・ 事例　42
・もりやま食のまちづくりプロジェクト（滋賀県守山市）　・・・・・ 事例　43
・株式会社里山創生研究所（大阪府豊能町）　・・・・・・・・・・・ 事例　44
・一般社団法人曽爾村農林業公社（奈良県曽爾村）　・・・・・・・・ 事例　45
・合同会社 TEA UEKUBO（奈良県奈良市）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　46
・和歌山大学観光学部 地域連携プログラム 有田川町ＬＰＰ 棚田ふぁむ
（和歌山県有田川町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　47
・みなべ町×一般社団法人日本ウェルビーイング推進協議会「梅収穫ワーケーション」
（和歌山県みなべ町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　48
・天野の里づくりの会（和歌山県かつらぎ町）　・・・・・・・・・・ 事例　49
・うしかい・甲南・信楽「ふるさと支え合い」プロジェクトチーム
（滋賀県甲賀市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　50
・ＮＰＯ法人愛のまちエコ倶楽部（滋賀県東近江市）　・・・・・・・ 事例　51
・株式会社農都（京都府京丹波町）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　52
・美原の古代米プロジェクト（大阪府堺市）　・・・・・・・・・・・ 事例　53
・一般社団法人ため池みらい研究所（兵庫県加古川市）　・・・・・・ 事例　54

・株式会社多可町地域商社 RAKU（兵庫県多可町）　・・・・・・・・・・・ 事例　55
・安達大樹（Awaji369farm）（兵庫県洲本市）　・・・・・・・・・・・ 事例　56
・田原アグリサポート協議会（奈良県奈良市）　・・・・・・・・・・・ 事例　57
・畑ヘルパー倶楽部®（奈良県奈良市）　・・・・・・・・・・・・・・ 事例　58
・大和高原「福住村」プロジェクト（奈良県天理市）　・・・・・・・・ 事例　59
・生駒市地域活力創生部農林課（奈良県生駒市）　・・・・・・・・・・ 事例　60
・有限会社類農園（奈良県宇陀市）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　61
・ＹＡＭＡＺＯＥオーガニック講座（奈良県山添村）　・・・・・・・・ 事例　62
・特定非営利活動法人　おおいわ結の里（奈良県大淀町）　・・・・・ 事例　63
・平原区自治会むらづくり委員会（奈良県下市町）　・・・・・・・・・ 事例　64
・たんぼの楽耕（奈良県河合町）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　65
・十市町地域保全向上活動組織（奈良県橿原市）　・・・・・・・・・・ 事例　66
・特定非営利活動法人明日香の未来を創る会（奈良県明日香村）　・・ 事例　67
・葛城山麓地域協議会（奈良県葛城市）　・・・・・・・・・・・・・・ 事例　68
・秋津川振興会（和歌山県田辺市）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　69
・株式会社 Muroji-farm （京都府舞鶴市）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　70

９　農福連携
・株式会社しんやさい（京都府京都市・久御山町）　・・・・・・・・・ 事例　71
・ＮＰＯ法人障害・高齢者就労支援センターＬＩＮＫ‘Ｓ
（京都府亀岡市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　72
・ＮＰＯ法人たかつき（大阪府高槻市）　・・・・・・・・・・・・・・ 事例　73
・社会福祉法人杉の子会（滋賀県多賀町）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　74
・三休合同会社（京都府京田辺市）　・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　75
・社会福祉法人みどり会さんさんグリーン（大阪府枚方市）　・・・・ 事例　76

10　６次産業化
・株式会社おさぜん農園（京都府八幡市）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　77
・大阪府立園芸高等学校（大阪府池田市）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　78
・淡路島ワイナリー合同会社（兵庫県淡路市）　・・・・・・・・・・・ 事例　79
・株式会社堀内果実園（奈良県五條市）　・・・・・・・・・・・・・・ 事例　80
・株式会社じゃばらいず北山（和歌山県北山村）　・・・・・・・・・・ 事例　81

11　鳥獣被害対策・ジビエ
・株式会社 RE-SOCIAL（京都府笠置町）　・・・・・・・・・・・・・ 事例　82

12　その他
・かみむら農園（京都府八幡市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 事例　83
・自然派農場しもかわ（奈良県山添村）　・・・・・・・・・・・・・・ 事例　84

・株式会社やまやま（和歌山県かつらぎ町）　・・・・・・・・・・・・ 事例　85

# （参考）【取組事例集】過去に掲載した農林水産事業者等

## １　農林水産物・食品の輸出

**＜令和２～５年度＞**

・有限会社深見梅店（和歌山県上富田町）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～５年度＞**

・株式会社柳澤果樹園（奈良県五條市）
・築野食品工業株式会社（和歌山県かつらぎ町）

**＜令和３～５年度＞**

・大果大阪青果株式会社（大阪府大阪市）
・山陽盃酒造株式会社（兵庫県宍粟市）

**＜令和２～６年度＞**

・カタシモワインフード株式会社（大阪府柏原市）
・和牛マスター株式会社（兵庫県姫路市）
・株式会社神明（兵庫県西宮市）
・津田宇水産株式会社（兵庫県たつの市）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～６年度＞**

・丸安茶業株式会社（滋賀県甲賀市）
・有限会社澤井牧場（滋賀県竜王町）
・有限会社カンナンファーム（兵庫県丹波市）

**＜令和４～６年度＞**

・ヤマサ蒲鉾株式会社（兵庫県姫路市）
・兵庫県手延素麺協同組合（兵庫県たつの市）
・梅乃宿酒造株式会社（奈良県葛城市）

**＜令和５～６年度＞**

・株式会社クボタ（大阪府大阪市）
・株式会社ヤマサン（京都府宇治市）

**＜令和６年度＞**

・株式会社小林順蔵商店（大阪府大阪市）
・株式会社モトックス（大阪府東大阪市）
・和牛マスター輸出拡大コンソーシアム（兵庫県姫路市）
・大吉商店株式会社（滋賀県高島市）
・チョーヤ梅酒株式会社（大阪府羽曳野市）
・瀬崎林業株式会社（大阪府大阪市）
・播州乾麺輸出拡大協議会（兵庫県姫路市）

## ２　環境保全型農業

**＜令和３～５年度＞**

・有限会社紀州高田果園（和歌山県みなべ町）

**＜令和４～５年度＞**

・農事組合法人京丹波ほたるの里（京都府京丹波町）

・秋鹿酒造有限会社（大阪府能勢町）

・農事組合法人ファームくだわ（兵庫県朝来市）

・成田ふぁーむ（大阪府能勢町）

**＜令和５年度＞**

・株式会社サンプラザ（大阪府羽曳野市）

・ユメファーム（兵庫県豊岡市）

**＜令和２～６年度＞**

・株式会社アグリケーション（滋賀県草津市）

・たじま農業協同組合（兵庫県豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～６年度＞**

・中道農園株式会社（滋賀県野洲市）

・株式会社アグリヘルシーファーム（兵庫県丹波篠山市）

・牛尾農場（兵庫県市川町）

**＜令和３～６年度＞**

・ソルモンド（京都府亀岡市）

**＜令和４～６年度＞**

・有限会社クサツパイオニアファーム（滋賀県草津市）

**＜令和５～６年度＞**

・農事組合法人味心グループ（和歌山県紀の川市）

## ３　スマート農業

**＜令和２～５年度＞**

・特定非営利活動法人ハンサムガーデン（奈良県宇陀市）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～５年度＞**

・株式会社パーシテック（滋賀県高島市）

・株式会社東馬場農園（兵庫県神戸市）

**＜令和５年度＞**

・宮垣農産（兵庫県丹波市）

**＜令和２～６年度＞**

・有限会社フクハラファーム（滋賀県彦根市）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～６年度＞**

・株式会社玄米家（兵庫県加東市）

**＜令和５～６年度＞**

・ＪＡ京都にのくに（京都府綾部市）

・株式会社たがみ（和歌山県田辺市）

## ４　生産性向上（生産基盤の強化）

**＜令和２～５年度＞**

・かよ柿出荷組合（奈良県天理市）

**＜令和３～５年度＞**

・株式会社グリーンファーム揖西（兵庫県たつの市）

・株式会社博農（兵庫県たつの市）

**＜令和２～６年度＞**

・株式会社イカリファーム（滋賀県近江八幡市）

・株式会社上田畜産（兵庫県香美町）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～６年度＞**

・農事組合法人河原林（京都府亀岡市）

**＜令和４～６年度＞**

・有限会社花匠（滋賀県東近江市）

・ＪＡ京都にのくに万願寺甘とう部会協議会（京都府綾部市）

## ５　食育・地産地消

**＜令和２～５年度＞**

・畿央 nutrition egg チーム（畿央大学）（奈良県広陵町）

**＜令和３～５年度＞**

・東洋大学附属姫路高等学校地域活性化 PROJECT TOYO（兵庫県姫路市）

・認定こども園武庫愛の園幼稚園（兵庫県尼崎市）

**＜令和３～５年度＞**

・シェアリンク茨木（大阪府茨木市）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～６年度＞**

・学校法人村川学園大阪調理製菓専門学校（大阪府泉大津市）

**＜令和３～６年度＞**

・大阪成蹊大学（大阪府大阪市）

・NSW 株式会社（大阪府泉佐野市）

**＜令和４～６年度＞**

・西野農園（大阪府大阪市）

・株式会社陸水（大阪府岬町）

・アーバンファーム ASAOKA（大阪府富田林市）

・和歌山県立神島高等学校商品開発プロジェクト「神島屋」（和歌山県田辺市）

**＜令和５～６年度＞**

・株式会社八幡営農（兵庫県加古川市）

・宇治市健康づくり・食育アライアンス U-CHA（京都府宇治市）

・相愛大学管理栄養学科（大阪府大阪市）

・大阪市食生活改善推進員協議会（大阪府大阪市）

・兵庫県いずみ会（兵庫県）
・羽衣国際大学（大阪府堺市）

## ６　ＧＡＰの推進

**＜令和５年度＞**

・京都府立木津高等学校（京都府木津川市）

**＜令和４～６年度＞**

・株式会社中野農園（大阪府高槻市）
・和歌山県農林大学校（和歌山県かつらぎ町）

**＜令和６年度＞**

・京都府立農芸高等学校（京都府南丹市）

## ７　企業等の農業参入

**＜令和５年度＞**

・株式会社 Amnak（兵庫県養父市）

**＜令和４～６年度＞**

・野村ファーム株式会社（大阪府交野市）

**＜令和５～６年度＞**

・株式会社中川（和歌山県田辺市）
・株式会社ヨシムラファーム（和歌山県紀の川市）
・グリーンエコスター株式会社（滋賀県守山市）
・有限会社類農園（奈良県宇陀市）
・株式会社はじまり屋（奈良県宇陀市）
・奈良みらいデザイン株式会社（奈良県宇陀市）
・有限会社るり渓やぎ農園（京都府南丹市）
・株式会社京つけもの西利ファーム（京都府京丹後市）
・はるちかファーム（近鉄百貨店）（大阪府河南町）
・株式会社ＮＯＵＥＮ（兵庫県朝来市）
・株式会社 Awaji Nature Farm（兵庫県淡路市）
・株式会社池上農場（兵庫県淡路市）
・株式会社 Sakura Farm（奈良県桜井市）
・株式会社三舞ファーム（和歌山県白浜町）

## ８　新規就農・担い手、担い手育成

**＜令和２～５年度＞**

・山本　賢司　氏（奈良県宇陀市）

**＜令和２（令和４年１月改訂版）～５年度＞**

・森農園（兵庫県淡路市）

**＜令和２～６年度＞**

・前田　航　氏（兵庫県加西市）

**＜令和３～６年度＞**

・半田ファームじぇっとハウス苺園（大阪府豊中市）

・きらめき農業塾（大阪府富田林市）

**＜令和４～６年度＞**

・株式会社グリーンちゅうず（滋賀県野洲市）

・農事組合法人ツユグチ（大阪府和泉市）

・兵庫県立香住高等学校海洋科学科（兵庫県香美町）

**＜令和５～６年度＞**

・和歌山県農業協同組合 紀の里地域本部 あら川の桃部会（和歌山県紀の川市）

## ９　農業との多様な関わり

**＜令和３～５年度＞**

・有限会社王隠堂農園（奈良県五條市）

**＜令和２～６年度＞**

・株式会社秋津野（和歌山県田辺市）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～６年度＞**

・株式会社丹波たぶち農場（兵庫県丹波篠山市）

・株式会社小池農園こめハウス（兵庫県神戸市）

・須原魚のゆりかご水田協議会せせらぎの郷（滋賀県野洲市）

**＜令和３～６年度＞**

・伊根浦地区農泊推進地区協議会（京都府伊根町）

**＜令和４～６年度＞**

・色川地域振興推進委員会（和歌山県那智勝浦町）

・仰木自然文化庭園構想八王寺組（滋賀県大津市）

・ＮＰＯ法人愛のまちエコ倶楽部（滋賀県東近江市）

・宇陀市古民家活用地域活性化協議会（奈良県宇陀市）

**＜令和５～６年度＞**

・ONE SLASH 株式会社（滋賀県長浜市）

・滋賀県立八日市南高等学校（滋賀県東近江市）

・一般社団法人泉北レモンの街ストーリー（大阪府堺市）

・明日の走井を考える会（滋賀県栗東市）

・兵庫楽農生活センター（兵庫県神戸市）

・あすか夢耕社「あすかオーナー制度」（奈良県明日香村）

・和歌山県農業協同組合わかやま地域本部「やろう会」（和歌山県和歌山市）

・農業体験農園太田ファーム（和歌山県和歌山市）

・小阪の棚田「棚田を守ろう会」（和歌山県那智勝浦町）

・株式会社東山ベジフル（大阪府八尾市）
・FROM FARM(和歌山県海南市)
・和歌山大学地域交流援農サークル agrico.（和歌山県和歌山市）
・太田川流域農泊振興協議会（宗教法人大泰寺）（和歌山県那智勝浦町）

## 10　農福連携

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～５年度＞**
・有限会社アグリハイランド金谷（兵庫県養父市）
・北坂養鶏場（兵庫県淡路市）
**＜令和３～５年度＞**
・社会福祉法人太陽福祉会菜の花作業所（和歌山県御坊市）
・NPO 法人南高梅の会（和歌山県みなべ町）
**＜令和２年度～６年度＞**
・社会福祉法人わたむきの里福祉会（滋賀県日野町）
・ハートランド株式会社（大阪府泉南市）
**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～６年度＞**
・株式会社舞洲フェルム（大阪府大阪市）
・ＪＡ兵庫南（兵庫県稲美町）
・社会福祉法人青葉仁会（奈良県奈良市）
**＜令和３年度～６年度＞**
・株式会社いずみエコロジーファーム（大阪府和泉市）
・社会福祉法人一麦会ソーシャルファームもぎたて（和歌山県紀の川市）
**＜令和４年度～６年度＞**
・街かどあぐりにしなりよろしい茸工房（大阪府大阪市）
・社会福祉法人有田つくし福祉会早月農園（和歌山県有田川町）
**＜令和５年度～６年度＞**
・ＮＰＯ法人つどい（滋賀県長浜市）
・一般財団法人かがやきホーム（奈良県橿原市）

## 11　６次産業化

**＜令和２～５年度＞**
・株式会社芦田ポートリー（兵庫県丹波市）
**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～５年度＞**
・株式会社ふみこ農園（和歌山県有田川町）
・株式会社丸尾牧場（兵庫県赤穂市）
・有限会社宝牧場（滋賀県高島市）
**＜令和３～５年度＞**
・九果園（奈良県橿原市）

**＜平成３１～令和６年度＞**

・有限会社レチェール・ユゲ（兵庫県神戸市）

**＜令和２～令和６年度＞**

・株式会社河西いちご園（滋賀県守山市）

・有限会社古株牧場（滋賀県竜王町）

・quarte ferme　森田耕司（兵庫県丹波篠山市）

・株式会社早和果樹園（和歌山県有田市）

**＜令和２年度（令和４年１月改訂版）～６年度＞**

・農事組合法人古座川ゆず平井の里（和歌山県古座川町）

**＜令和３～令和６年度＞**

・有限会社るシオールファーム（滋賀県甲賀市）

・プラスワングループ（兵庫県川西市、加東市）

・有田川町×龍谷大学（和歌山県有田川町）

**＜令和５～６年度＞**

・御所市６次産業化・地産地消推進協議会（奈良県御所市）

・８７株式会社　増田　健多　氏（滋賀県東近江市）

・西河農園（大阪府能勢町）

## 12　鳥獣被害対策・ジビエ

**＜令和３～５年度＞**

・古座川ジビエ振興協議会（和歌山県古座川町）

**＜令和２～６年度＞**

・ＮＰＯ法人 cambio（兵庫県多可町）

・株式会社日向屋（和歌山県田辺市）

**＜令和４～６年度＞**

・一円　憲一 氏（滋賀県多賀町）

・宍粟市有害鳥獣対策推進協議会（兵庫県宍粟市）

## 13　その他

**＜令和３～５年度＞**

・東播用水土地改良区（兵庫県三木市）

**＜令和４～５年度＞**

・NPO 法人里山ひだまりファーム（大阪府河内長野市）

**＜令和４～６年度＞**

・農事組合法人堺酪農組合（大阪府堺市）

・大阪府鰮巾着網漁業協同組合（大阪府岸和田市）

・和×夢 nagomu farm®八代目園主　那須　誠　氏（和歌山県田辺市）

・梅遊びグループ（和歌山県みなべ町）

滋賀県蒲生郡竜王町

# 株式会社オカキブラザーズフーズ

農林水産物・食品の輸出

## 三兄弟で取り組む6次産業化で世界へ




## 取組内容

〇近江牛岡喜グループとして三兄弟で牧場、食肉加工流通、飲食店・精肉店の6次産業化を展開。牛1頭まるごと輸出を実現。
〇地元生産者から稲わらを仕入れ、牧場の堆肥を還元、その農場で生産された米・果実を直営店で利用。また、副産物の牛革を活用し、鞄などを製造販売するなどSDGsの取組を実施。
〇タイに現地法人を設立し、現地卸売販売会社やレストランを開業。



自社牧場で生育しているこだわりの近江牛

## 取組に至った経緯

〇先代の急死により、三兄弟で分業しグループ会社として経営を引き継ぐ。
〇平成23年に海外顧客からの問合せにより新たなチャレンジとして、岡喜商店のグループ内の牧場にて繁殖・肥育した近江牛の輸出を開始。平成25年以降は、株式会社オカキブラザーズフーズを創業し、直接輸出に取り組む。

## 取組の成果（受賞等）

○ 令和7年度輸出に取り組む優良事業者表彰輸出・国際局長賞受賞。
○ 直接貿易を基本とすることで、中間マージンの削除、効率的な輸出を実現。
○ 現地法人設立で、現地での加工や営業を行うことができ、迅速な対応が可能となった。
○ 6次産業化の強みで、ホルモンを含むフルセットで輸出が可能となった。

## 今後の展望

○ 令和7年からUAE向け輸出が始まり、ハラール処理を実施することで、セカンダリー部位に付加価値を付けるなどし、これを強化しつつ、価格を維持したフルセットに近い形での輸出を目指す。
○ インドネシア・マレーシア・EUへの販路拡大を目指す。

# 大阪府大阪市
## 株式会社ゆみるめ

農林水産物・食品の輸出




## 取組内容

○ 自社ブランド鮮凍力（せんとうりょく）を活用した独自の鮮度保持技術の開発で、魚種ごとに最適化した急速凍結で、鮮魚と変わらない「旬の味」を世界へ提供している。
○ より優れた目利きによる高級魚種に特化し、輸出前の一次加工は国内で実施、現地での作業負担を大幅に減らすことや、解凍レシピ、試食会実施などでミシュランなど高級料理店のリピート率90%以上を維持。
〇輸出開始からわずか3年で、初年度実績から8300%以上増額し、2億5000万円を超過。主にシンガポール、タイ、カンボジアなどに輸出している。

## 取組に至った経緯

○ もともと国内向け高級鮮魚の販売を行ってきたが、JETROのハンズオン支援を利用したところ、シンガポールから鮮魚輸出の依頼があったことから冷凍メインの船便輸出から鮮魚の空輸便を主力に輸出を始めた。

## 取組の成果（受賞等）

○ 令和7年度近畿農政局輸出に取り組む優良事業者表彰近畿農政局長賞受賞。
○ 現地レストラン向けに、解凍レシピの実践や試食会の開催により、日本の最高級食材、日本品櫃の向上に寄与し続けている。
○ 余剰魚を一括買付、凍結、加工することで、大量廃棄を防ぎ、SDGsにも貢献できている。

## 今後の展望

○ 海外では入手しにくい山菜、キノコなどの混載依頼もあるため、鮮魚だけでなく青果物の輸出も伸ばしたいと考えている。
〇第3国を介した三国間貿易も視野に入れ、欧米にも進出していきたい。

# 和歌山県

## 和歌山県農業協同組合

農林水産物・食品の輸出




## 取組内容

〇1,050名の生産者と連携し、台湾や香港中心に輸出。令和6年度輸出額は2億1,500万円
〇台湾向け生果実登録選果こん包施設として4選果場を登録。
〇台湾向けには、台湾の残留農薬基準に対応した防除暦を作成して生産。
〇香港・シンガポールには、大玉果や化粧箱での梱包など、国内輸出業者や現地バイヤーからのニーズに対応した輸出に取り組んでいる。
〇バイヤー招聘やWEB商談会及び現地量販店での試食等販促活動を通じて輸出先国でのニーズ把握に努める。



出荷梱包施設

## 取組に至った経緯

〇和歌山県内8JAの合併以前（2006年）に、大阪の市場荷受会社から、台湾向け桃の輸出について提案があり、新規販路の一つとして輸出の取組を開始。

## 取組の成果（受賞等）

〇 令和7年度　フラッグシップ輸出産地（もも）認定
（参考）合併前の紀の里農業協同組合（現・和歌山県農業協同組合 紀の里地域本部）が、令和3年度輸出に取り組む優良事業者表彰において、輸出・国際局長賞を受賞

## 今後の展望

〇 農家所得の向上を目指して、直接輸出も含めた販売チャネルを増やしていきたい。

# 和歌山県
## 和歌山県農業協同組合

農林水産物・食品の輸出




## 取組内容

〇2699名の生産者と連携し、香港やタイ中心に輸出。令和6年度の輸出額は1億2,900万円。
〇香港・シンガポール向けにニーズの高い「紀の川柿」を輸出。
〇品質維持のため、軟化抑制剤を使用した柿を輸出。
〇タイ向け輸出に関しては、生産園地及び選果こん包施設（8施設）の登録を実施し、輸出体制を構築。
〇バイヤー招聘やWEB商談会及び現地量販店での試食等販促活動を通じて輸出先国でのニーズ把握に努める。


現地バイヤーとの商談

## 取組に至った経緯

〇和歌山県内8JAの合併以前（2000年頃）から、たねなし柿や富有柿を香港、タイ等のアジアを中心に、市場を通じて輸出。

## 取組の成果（受賞等）

〇 令和7年度　フラッグシップ輸出産地（かき）認定
（参考）合併前の紀の里農業協同組合（現・和歌山県農業協同組合 紀の里地域本部）が、令和3年度輸出に取り組む優良事業者表彰において、輸出・国際局長賞を受賞

## 今後の展望

〇 農家所得の向上を目指して、直接輸出も含めた販売チャネルを増やしていきたい。

# 京都府京都市
## 株式会社 オーガニックnico



環境保全型農業

データ活用型有機農業で有機イチゴのトップブランドを目指す

## 取組内容

○（株）オーガニックnicoは、「環境に優しくおいしく健康に良い野菜づくり」をコンセプトに、イチゴを中心に有機野菜を栽培し、「有機JAS認証」の取得にも積極的に取り組んでいる。
○ 会社設立時から、持続可能なデータ活用型農業の技術開発・普及を担う「アグリサイエンス事業」と、その技術を活かした野菜づくりを実践する「有機野菜事業」の二本柱で経営を展開。
○ 有機農法による収穫量と品質アップに日々精進するとともに、立地の良さを活かしたイチゴ狩りなどのコト売りや事務所前での直売所運営を行っており、経営の安定化に取り組んでいる。

## 取組に至った経緯

○ 代表は、長年、光エレクトロニクス分野のエンジニアをしていたが、年を重ねるごとに地球環境に直接関わる仕事がしたいとの想いが募り、南丹市で有機農業に参入。就農3年目に法人化、7年目に大原野に拠点を移して、有機栽培の生産技術開発に本格的に着手。

## 取組の成果

○ 有機野菜事業では、ハウス62aでイチゴ、トマト、ベビーリーフを、露地50aでは緑肥により土づくりを行い、なすやブロッコリーなどを栽培。
○ アグリサイエンス事業では、農学博士や技術士の資格を持つ社員の強みを生かし、コンサルティングや農業用資材の受託研究などを手掛けている。
○ 代表が校長を務める亀岡オーガニック農業スクールは、令和8年2月に第三期講座が開講。

## 今後の展望

○ 同社では、社名の由来にもなっている「2525（ニコニコ）運動」と呼ぶ活動を展開。有機農産物のシェアを25%まで引き上げ、有機農産物が特別なものではなく普通に手に取れるものとなるよう実践、研究、普及に取り組み、フラッグシップとして、有機イチゴのトップブランドを目指す。



環境制御システムで管理されたハウス




有機栽培で育てたミニトマト

# 京都府京丹後市
## 株式会社 エチエ農産

環境保全型農業



環境にやさしい農業を
まじめにコツコツと

## 取組内容

○（株）エチエ農産は、自然環境に配慮した「環境保全型農業」に取り組み、エコファーマー認定を受けるとともに、農地の「有機JAS認証」も取得。有機JAS認証農場以外の農場でも化学肥料や化学合成農薬の使用量を低減した特別栽培米や野菜を栽培してきたことで、今ではコウノトリが頻繁に訪れるようになり、水田で羽を休める姿は、すっかり日常の風景となっている。
○ 令和８年は水稲28ha（うち有機2.5ha）、露地野菜7ha（うち有機2.5ha（人参90a、里芋80a、玉ねぎ35a等））の栽培を計画しており、有機栽培や特別栽培により生産した米や野菜は学校給食向けにも納入している。
○ 省力化のため、直進アシスト機能付きトラクターを１台導入したほか、抑草効果のあるアイガモロボを従来の１台から３台に増すなど、スマート農業にも取り組んでいる。

## 取組に至った経緯

○　就農当初は、主に水稲とタバコを栽培していたが、農薬を多用するタバコ栽培に疑問を抱き、本当にやりたい農業は、「未来の子供たちのために安心・安全な農産物をつくること」との想いに至り、これまでコツコツとーから土壌作りに取り組んできた。



コウノトリが訪れている様子

## 取組の成果（受賞等）

○ 平成24年「第17回全国環境保全型農業コンクール」優秀賞
（主催：全国環境保全型農業推進会議）
「第61回全国農業コンクール」優秀賞（主催：毎日新聞社）
○ 平成27年「若手農業者 京都府知事賞」（主催：京都府）
○ 令和元年「農事功労者 緑白綬有功章」（主催：公益社団法人大日本農会）



独自ブランド「おおきに大地米」
商標登録もされている

## 今後の展望

○ 高齢化が進む中、豊かな自然に配慮した農法を実践しながら、地域の農地を守っていくとともに、これからも未来の子供たちのために、まじめに手を抜かず、安心・安全な農作物を作り続けていく。

# 京都府京丹後市
## ビオ・ラビッツ株式会社




## 取組内容

○ 自然豊かな丹後地域で、有機野菜を栽培しており、出荷作業は、障がい者支援施設に委託するなど農福連携に取り組んでいる。また、有機野菜は地元の学校給食等に供給するとともに、加工食品（調味料、ポタージュ、ドレッシングなど）の製造・販売やカフェの営業も行っている。
○ 同市では、令和8年3月末に有機農業に関わる生産者や関係者が連携し、情報共有や普及啓発を進めることを目的に、「京丹後市オーガニックアクション」を立ち上げ、梅本代表取締役は初代会長を務めており、「オーガニック給食」の普及にも注力している。

## 取組に至った経緯

○ 学校給食に輸入野菜が多用されている現実を知り、子どもたちに安心・安全な野菜を食べさせたいとの想いから有機農業に切り替え、平成19年に有機JAS認証を取得。
○ 食育や自然と繋がることの大切さを楽しく発信するため、令和2年4月に法人化し、ビオ・ラビッツ株式会社を設立。


ビオ・ラビッツ株式会社
代表取締役　梅本　修さん

## 取組の成果

○ 自社で生産する有機にんじんの成分分析を委託実施した結果、糖度は高く、硝酸濃度が低いなどから、人体に良いとされる抗酸化力が慣行品と比べて高い数値であることを確認した。
○ こうした客観的なデータは有機農業価値を示す重要な要素であり、今後は、トマトなどの他品目の分析も実施する方向。

## 今後の展望

○京丹後市の豊かな自然と“長寿のまち”の特色を活かしたヘルスツーリズムを推進する「京丹後ヘルスツーリズム地域事業者協議会」の構成員として、同社では有機野菜の食体験や収穫等の農作業体験を提供する予定。
○ 自社の土づくりは、落ち葉や刈草を集めてきて、「自然から生まれる土」を畑で再現している。現在、近隣河川敷の管理で生じる刈草も堆肥化して土づくりに活用しており、本取組は、有機農業を拡大していく上で有機質肥料の供給量不足への備えや経費節減にも効果があることから、有効な資源として今後も活用していきたい。


自社の加工場、直売コーナーを併設するオーガニックカフェ「てんとうむしばたけ」

環境保全型農業の推進

有機農業の担い手づくり

# 大阪府能勢町

## 成田ふぁーむ



## 取組内容

○　能勢町内の有機農家で研修を受けた後、平成24年に独立就農。その翌年には有機JAS認証を取得し、現在、250aで有機野菜等の生産を行っている。
○　独立就農後から、有機農業を志す就農希望者の研修を実施。令和5年度からは大阪府とJAグループ大阪が主催する大阪産（もん）スタートアカデミーの「有機農産物アカデミー」で講師を務め、人材育成に貢献している。
○　令和3年には能勢町の有機農業者と消費者を繋げるCSA（地域支援型農業）「のせすく（能勢×サブスクリプション）」を立ち上げ、消費者の有機農業への理解の促進や、地域の農業者の販路確保・経営安定に寄与している。

## 取組に至った経緯

○　前職の放送作家時に農業者を取材した際、生き生きと楽しそうに農業に取り組んでいる姿に感銘を受け、就農を決意し、転身。

## 取組の成果（受賞等）

○　令和7年度近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール近畿地域環境保全型農業推進連絡会議会長賞受賞
○　第4回（令和2年度）おおさかNO-1（のうワン）グランプリ最優秀賞受賞（農業経営強化ﾌﾟﾗﾝｺﾝﾃｽﾄ、主催：大阪府・JAグループ大阪）



## 今後の展望

○　有機農業者の育成や地域農業の活性化に加えて、有機JAS認証の認知向上や取得推進を目指していきたい。

## 兵庫県神戸市

## 株式会社だいずデイズ

環境保全型農業の推進

# 有機転換期間中の大豆の積極的な活用




## 取組内容

○　蒸し大豆を中心とした豆加工品の製造、卸売及び通信販売を実施。
○　有機転換期間中の大豆を適正価格で積極的に買い取るとともに、その価値を伝える商品開発と販売ルートの確保により、有機農業の拡大を推進。
○　消費者・販売者に近い食品加工メーカーの強みを活かし、食育セミナーや販売店での試食販売、展示会などを通じて、有機転換期間中大豆の価値の発信、普及活動に積極的に取り組んでいる。

## 取組に至った経緯

○　2015年に「有機蒸し大豆」を発売。小売店や消費者からの国産有機に対するニーズが高まる一方で、有機大豆は生産規模が限られており、原料の確保が課題となっていた。
○　有機大豆の仕入先を探す中で、有機農業に興味のある生産者はいるものの、転換期間中の販売先の少なさや買取金額の低さが不安要素となり有機農業にチャレンジしにくいという生産者側の声を聞き、有機転換期間中大豆の支援の必要性を認識した。

## 取組の成果（受賞等）

○　サステナアワード2025「消費者庁長官賞」受賞
（あふの環2030プロジェクト～食と農林水産業のサステナビリティを考える～（農林水産省、消費者庁、環境省））




## 今後の展望

○　生産者、メーカー、販売者、消費者というバリューチェーン全体で有機を広げる仕組みづくり、理解・協力の促進を進めたい。

## 兵庫県淡路市

### 株式会社Awaji Nature Farm（株式会社折兼 共同）

環境保全型農業の推進

# バガスフードサイクリングの取り組み







## 取組内容

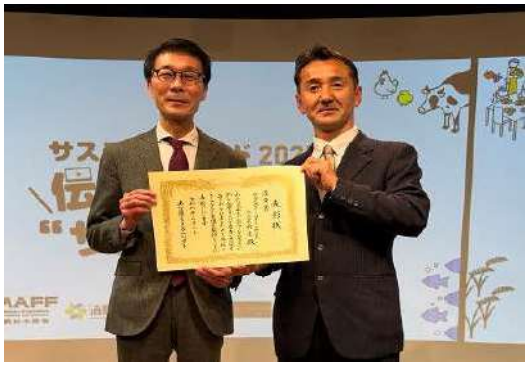
○　（株）折兼が製造する、サトウキビの搾りかす（バガス）を原料とした環境配慮型容器を、パソナグループが兵庫県淡路島の飲食施設で使用。
　使用後の容器は、同飲食施設から出る生ごみとともに堆肥化し、淡路島の（株）Awaji Nature Farmの農地で農作物生産に再利用。
　収穫された農産物は、同飲食施設で利用するほか、施設内のマルシェで販売し、「食べる→使う→育てる」までを一気通貫で循環させる「バガスフードサイクリング」を実現。
○　この取組により、堆肥購入費やごみ回収費用の削減につながっている。

## 取組に至った経緯

○　食品残さや使い捨て容器の廃棄による環境負荷が課題となる中、特に飲食・観光分野では、利便性と環境配慮を両立させながら資源を循環させる実践的な取組が求められるようになり、「廃棄を前提としない仕組みづくり」の必要性が高まった。

## 取組の成果（受賞等）

○サステナアワード2025 「優秀賞」受賞
（あふの環2030プロジェクト～食と農林水産業のサステナビリティを考える～（農林水産省、消費者庁、環境省））



## 今後の展望

○　パートナー企業や行政と連携し、「バガスフードサイクリング」による地域資源を活かした循環型農業の拡大に取り組み、サステナブルなフードビジネスの実現を目指す。

## 滋賀県甲良町

# 甲良集落営農連合協同組合（農事組合法人サンファーム法養寺）

環境保全型農業



農業の未来を開き、活発な農業生産を目指す

## 取組内容

○平成24年に周辺7集落営農法人による「甲良集落営農連合協同組合」を設立。販路開拓、共同利用機械の導入や労力の相互補完、経営の効率化、共同精算等により、安定した農産物の供給を確保できるようになり、量販店との契約販売も実現して、経営の安定化につながっている。
○周辺地域から収集した剪定枝等を粉砕、炭化して製造した「バイオ炭」と「家畜ふん堆肥」を混合した独自の有機肥料を施用した水稲栽培に取組んでいる。

## 取組に至った経緯

○農業のプロが地域のために何か貢献できないかと考え、地元の廃材を農業に活用する取組を考え実践。
○農作物の生産に「炭」を施用する効果は明らかになっており、土の有用微生物の増殖を目的として使用を開始。



バイオ炭の製造（（株）ケントム）

## 取組の成果及び課題

○バイオ炭を使用して生産したお米として販売するため、オリジナルの5kg袋を作成し、現在も好調な売れ行きを維持している。
○炭が良食味につながることは実感しているが、食味の数値化ができれば、より一層の宣伝効果になると考えている。

## 今後の展望

○農事組合法人サンファーム法養寺において、経営と技術を学んだ若手を地域の後継者として育成していきたいと考えている。あわせて甲良集落営農連合協同組合のバイオ炭を使った取り組みについても継続できるよう働きかけていきたい。

環境保全型農業

# 滋賀県長浜市
## 有限会社もりかわ農場



湖北地方の豊かな自然を次の世代へ

## 取組内容

○ 滋賀県長浜市の有限会社もりかわ農場は、水稲・麦・大豆を中心とし、野菜（ブロッコリー、白ネギ）・果樹（いちじく）・農産物加工など複合経営に取り組んでいる。
○ 水稲では、平成12年から無農薬栽培を開始し、平成19年からは有機JAS認証を受けている。また、滋賀県の環境こだわり農産物認証を取得するなど、食の安心・安全の確保や環境に配慮した農産物の生産に積極的 に取り組んでいる。
○ 作期分散のため、早生から晩生まで11品種を作付け。スマート農機の導入による省力化に加え、農地集積と大区画化に取り組むことで、作業効率を向上させている。
○ 障がい者雇用を行っており、雇用者の適性に合わせて仕事を割り振り、作業の「見える化」を 図ることで、作業効率を高め作業ミスを軽減するなど、働きやすい職場環境作りに努めている。

## 取組に至った経緯

○ 代表者は、平成7年に滋賀県指導農業士認定を受け、人と環境に優しい農業技術を多くの人に伝えるべく若手就農者の育成に長年取り組んでいる。
○ 地域農業を維持・発展させるとともに、自社経営の継続性や担い手の育成に取り組むため平成12年に法人化。



有限会社もりかわ農場の外観

## 取組の成果（受賞等）

○「令和6年度 全国優良経営体表彰」の経営改善部門において、農林水産大臣賞を受賞。

## 今後の展望

○ 今後も、滋賀県長浜市で自然環境への負荷を最小限に抑えた持続可能な農業の実践を追求していきたい。

# 京都府木津川市
## RedRice自然農園株式会社

環境保全型農業



# 環境保全型農業で農産物と人を育てる

## 取組内容

○ 農薬や肥料を使用せず、自然の力だけで育てる栽培方法や環境保全型農業に取り組み、米、れんこんなど年間30～40品目を栽培し、「AGBIOTECH株式会社」が展開する「PBF(Private Bio Farm)」 を通じて消費者に届けている。
○ 研修生を受入れ、技術・知識を伝えるかたわら、就農に向けた準備から、就農後のフォローアップまで請け負う。

## 取組に至った経緯

○ 食に関わる仕事がしたいという思いから、環境保全型農業を学び、安心して食べられる作物栽培を実践。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 会社勤めしながら2年間農業塾で栽培技術を学び、さらに1年間、環境保全型農業を実践する生産者のもとで研修を受け実践的なノウハウを習得。



## 取組の成果

○ 環境保全型農業により栽培された米や野菜は、「AGBIOTECH株式会社」により、環境負荷低減の取組を等級ラベルで可視化する「みえるらべる」において三ツ星を取得。

## 今後の展望

○ 持続可能性の観点から、環境保全型農業を広めたいと考えており、現在研修中の2名が終了後も、次の研修生の受け入れを続ける。

# 奈良県宇陀市
## 有限会社　山口農園



**環境保全型農業の推進**

**オーガニックビレッジを起点とした地域循環型農業**

## 取組内容

○　耕畜連携による循環型の土づくり、土壌診断に基づく施肥、防虫ネットの導入や太陽熱を利用した土壌消毒など持続可能な農業技術を確立。10ha171棟の全ハウスで有機JAS認証を受け、一年を通してホウレンソウ・コマツナなどの軟弱野菜とハーブ類の生産・出荷を行う。
○　生産・調整・販売業務等の完全分業化により計画生産・計画販売の体制を確立し、経営効率の向上と規模拡大を実現。
○　平成22年、職業訓練校として「オーガニックアグリスクールNARA」を開講。平成25年には山口農園とスクールの卒業生からなる山口農園グループを発足し、農地の斡旋や資材の共同購入、販路の支援を行いつつ、有機農産物を安定供給できる体制を整備。
○　令和４年に全国に先駆けてオーガニックビレッジ宣言を行った宇陀市において、地域の中心的な役割を務め、行政や他の有機農業者と連携し、地域ブランド力向上と有機農業の普及拡大に貢献。

## 取組に至った経緯

○　平成17年に環境に配慮した安全・安心の有機農業を広めることや、自然に分解される循環型の農業を目指して法人を設立。



## 取組の成果（受賞等）

○　令和７年度近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール近畿農政局長賞受賞
○　第22回（令和元年度）全国優良経営体表彰担い手づくり部門農林水産大臣賞受賞

## 今後の展望

○　行政や地域とも連携して全国のイベントに出展し、食品ロス削減の観点から開発した野菜ペースト加工品や食べられるアート墨汁を活用して、食や体験を通じて新たな角度から有機農業をアピールしていていきたい。

環境保全型農業の推進

# 兵庫県新温泉町

## オーガニックファームたにぐち株式会社



但馬鴨と米がつなぐ地域の未来

## 取組内容

○　アイガモ農法を通じた無農薬栽培米、大豆、飼料用米の生産と、鴨肉（但馬鴨）の加工・販売を実施。
○　耕作放棄地を活用した飼料用米の生産、鴨の堆肥での土づくり、無農薬の米の生産と鴨肉加工を組み合わせた「2つの循環（田んぼの循環・命の循環）」を確立。
○　餅や冷凍おむすび等の米加工品、但馬鴨の自社加工品を製造、直売所・道の駅・ふるさと納税など多様な販路で展開し、付加価値の高い農業経営を実現。また、鴨加工により若者の通年雇用を創出し、地域活性化にも貢献。

## 取組に至った経緯

○　平成3年にアイガモ農法に出会い、平成4年からアイガモ農法による無農薬栽培米の取組を開始。親子三代で循環型農業を実践。
○　以後、米を原料とした加工品の製造・販売や耕作放棄地の解消にも積極的に取り組んできた。
○　令和8年には、自然循環を生かした農業を実践し、将来に残すことのできる企業体になりたいとの思いから株式会社化。

## 取組の成果（受賞等）

○　令和7年度近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール近畿農政局長賞受賞
○　2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）ひょうごフィールドパビリオンのSDGs体験型地域プログラム（自然循環農法体験）認定



## 今後の展望

○　観光との連携や海外への輸出を行い、地域ブランドの更なる向上を図りたい。
○　自社が実践している地域の耕作放棄地を活用しながら中山間地における持続可能な農業経営の手法をモデルとして他地域へ展開していきたい。

# 滋賀県

## 滋賀県子実コーン組合

生産性向上




## 取組内容

○ 令和4年4月に県内の養鶏農家を含む組合員8名（総作付面積約10ha）で発足し、現在は14名（約30ha）に増加。
○ 定期的に研修会や機械メーカーの協力による収穫実演会等を開催し、子実用とうもろこしの普及活動を実施。
○ 令和5年に組合員が生産した子実用とうもろこしを一括管理する合同会社和（なごみ）を設立し、集荷・販売を実施。

## 取組に至った経緯

○ 代表理事組合長の久保田氏は、麦の連作障害対策として大豆に代わる作物を模索し、令和3年に子実用とうもろこしの試験栽培を開始。翌年には組合として組織化。
○ 養鶏農家からの需要もあり、所有している汎用コンバインのアタッチメント（ヘッダー）を交換することにより収穫作業の機械化が可能になった。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 子実用とうもろこしに使用できる防虫・防除薬剤が少ないため、早期に新規の登録や認可が求められている。
○ 規模拡大に伴い、収穫した子実用とうもろこしの保管場所に苦慮しているため、収穫量の増加に対応するための保管施設の整備や外部倉庫の活用を検討。
○ 現状では、麦あと大豆体系に比べて収益性が劣ることから、スマート農業機械の導入や生産基盤の改善により、収益性の向上を目指している。



現地検討会における収穫実演の様子

## 今後の展望

○ 国産飼料の引き合いは強く、繋がりがある養鶏農家だけでも約1,000トンの需要があり、当面はこれに見合う面積200haまでの作付規模拡大を目指す。
○ スマート農業機械を随時導入し、スケールメリットを活かして収益性を向上させていく考え。

# 奈良県平群町

## JAならけん西和花卉部会

生産性向上




## 取組内容

○　夏秋期の小菊出荷量が日本一を誇る平群町では、JAならけん西和花卉部会（部会員約100戸）が集出荷場に併設している低温貯蔵庫において、共撰・個撰出荷された約250品種の小菊の品質を管理し、約30の市場へ出荷している。

○　花卉部会の青年部を中心にオリジナル品種を育成しており、試作により選抜した優良品種は部会員に提供し、市場ニーズに応えている。

## 取組に至った経緯

○　平成21年、花の産地として全国で初めて地域団体商標に『平群の小菊』が登録され、これを契機に出荷数量のさらなる増加を目指し、平成25年には出荷市場別のグループ共撰を開始。

○　通年供給を望む市場のオーダーに対応するため、生産者からの荷受けを競り日の前々日とし、平成28年に整備した低温貯蔵庫で保管する体制を構築し、これにより、安定した供給体制が確立。




令和7年にリニューアルした看板

## 取組の成果（受賞等）

○　平成28年度に部会員１名が第46回日本農業賞個別経営部門で大賞を受賞

○　平成29年度には別の部会員１名が第56回農林水産祭園芸部門で天皇杯を受賞

## 今後の展望

○　市場への出荷情報の早期提供と、荷受け時におけるデジタル化を進めることで、業務を効率化し、さらなる販路拡大を目指す。

○　青年部を中心に、新たな共撰指定品種の育成を進めるなど、市場ニーズに対応するとともに、新規就農者による小菊栽培を支援していきたい。

# 奈良県五條市

## JAならけん西吉野柿部会

生産性向上







## 取組内容

○　市町村別では日本一の柿生産地である奈良県五條市のJAならけん西吉野柿部会（部会員229名）の選果場では、刀根早生（とねわせ）柿、平核無（ひらたねなし）柿、富有柿を中心に選果し、全国各地へ向けて出荷。
○　選果場の敷地内には、直売所も併設し、贈答用や家庭用のほか、柿の加工品などを販売。
○　毎年11月には、西吉野柿部会青年部が中心となり、選果場内で「柿の里まつり」を開催し、小さな子どもから大人まで楽しめるイベントを通じて、柿産地を盛り上げる取組を実施。

## 取組に至った経緯

○　地域には4つの柿選果場があったが、いずれも小規模で、機械の老朽化が進んでおり、選果場の大規模化が課題となっていた。
○　選果場の合併によるスケールメリットを生かした対応が必要との考えの下、各種支援策を活用し平成11年に西吉野統合選果場を整備。




## 今後の展望

○　柿の選果は限られた期間に多くの労働力を必要とするため、通年での雇用が難しく、労働力の確保が課題となっており、そのため、他産地や他産業との連携による労働力の確保に努めるとともに、繁忙期の異なる産地との連携や外国人スタッフの受入れを進めるなど、安定的に労働力を確保し、選果場の効率的な運営を目指す。
○　生産段階でも、労働力不足が始まっており、雇用が確保できないことから、さらなる規模拡大が進まない状況。労働力不足は、産地の競争力を失うことになりかねないため、今後も生産者とJA、行政など関係者が連携し、生産現場や共同選果場の状況を整理しながら、産地の生産性向上に向け体制を構築していきたい。

# 大阪府堺市
## 大阪府立農芸高等学校

食育・地産地消

地域、学校、社会を繋ぐ酪農教育ファーム



## 取組内容

○ 府内唯一の酪農教育ファーム認証牧場（一般社団法人中央酪農会議により認証）として、消費者の大阪酪農に対する理解向上と牛乳消費の拡大を目標に活動を開始。
○ 近隣の方々や小中学校を対象に、大阪酪農の現状と地域産牛乳の必要性について発信。
○ 近隣地域からビール粕（麦芽粕）を回収し、乳牛の高品質な飼料（エコフィード）として再利用する循環型農業を実施。

## 取組に至った経緯

○ 生徒たちの熱意から始まり、本格的な活動を目指すため地域の食育推進や府内酪農家へ活動を広げていくことを目的として開始。



堺市農業祭における牛の模型を使用した乳しぼり体験

## 取組の成果（受賞等）

○ 近畿「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第４回）に選定。
○ 第8回ディスカバー農山漁村（むら）の宝に選定。
○ 第1回みどり戦略学生チャレンジの大臣官房長賞を受賞。
○ 第2回みどり戦略学生チャレンジ近畿大会の特別賞を受賞。

## 今後の展望

○ 関係機関と連携し、食博覧会大阪での食育セミナーや地域マルシェなど様々なイベントを通じ、地域酪農や牛乳・乳製品をPRし、持続可能な大阪酪農を目指す。

食育・地産地消

# 京都府京都市

## みつばちBunBunクロスケの大原野げんき畑



京都で一番、いや、日本で、世界で、宇宙で一番、ユニークなイチゴ狩り農園

## 取組内容

○ 単なるイチゴ狩りの収穫体験にとどまらない、食への興味・関心を育むための食育活動を展開。
○ 食べることの楽しさや幸せを、五感を使って感じてもらえるよう、イチゴ狩りの前にワクワク・ドキドキ事前学習エンターテインメントとして「クロスケ劇場」を実施。
○「クロスケ劇場」の中で、保育園児・幼稚園児対象の食育パンフレット、イチゴ畑の「宝マップ」を配布。
○ ヨガ教室や音楽会、シェフによるイチゴフルコース料理会などのコラボ開催を通じて、イチゴ農園が異分野や世代間を超えた交流の場となり、食育活動の輪を広げている。

## 取組に至った経緯

○「もっと、お客さんの笑顔が見たい」との一念でそれまでの野菜栽培からイチゴ栽培に変更し、イチゴを食べてもらうスタイルではなく、最高の笑顔で食べてもらいたいとの想いで、現在のイチゴハウスの運営形態となった。



イチゴのタネは、なに色？



みつばちブンブンの大合唱！

## 取組の成果（受賞等）

○「第9回食育活動表彰」（令和7年度：教育関係者・事業者部門）
農林漁業者等の部：審査員特別賞
○「地産地消等優良活動表彰」（平成29年度：交流促進部門）
近畿農政局長賞

## 今後の展望

○ 現状の保育園・幼稚園受入れに併せて、高齢者施設の同時受入れを進めたい。また、「いちご狩りプラス1」として、ヨガ教室や様々なイベントとコラボして、いちご狩り園が、世代間を超えた交流の場となるように展開したい。
○「クロスケ劇場」では、インバウンドのお客さん対応としてテレビモニターでの多言語化にも対応していきたい。

# 大阪府大阪市

## 株式会社うおいち

食育・地産地消

魚食の魅力を発信、ライフラインとしての食を支える取組







海洋ごみについて考える紙芝居



大学生に魚の流通や資源の現状などの講義

## 取組内容

○ 若者を対象とした料理教室や講義等を実施。
○ 業界関係者への月刊商品情報＆STRATEGYの発行や入荷相場情報等の発信。
○ 市場見学、魚の試食会、イベント・企画の開催などを通じた消費者への魚食の普及。

## 取組に至った経緯

○ 水産業界は資源減少や魚価低迷、新規参入者の減少、高齢化などの課題を抱えているとともに、消費者の魚離れも深刻となる中、中央卸売市場の立場を活かし、正しい魚の知識を伝え、消費拡大を図る食育活動を開始した。



うおいち新入社員調理実習

## 取組の成果（受賞等）

○「第9回食育活動表彰」（令和7年度：教育関係者・事業者部門）
【企業の部】消費・安全局長賞

## 今後の展望

○ 当社の食育活動は、食育基本法制定時に始まり、この法に賛同し、積極的に取り組む姿勢を育んできた。初めは小規模からスタートし、ネットワークを構築することで参加者が増加。情報共有を促進し、地域全体の食育向 上を実現。参加者同士の紹介や問い合わせが増え、協力関係を構築。今後も多様な視点を取り入れ、地域特性を活かした食育の進展にも寄与していきたい。
○ ネットワークを広げるなど、業界を超えた取り組みを進め、協賛先との双方向のメリットを追求していきたい。具体的には地域の専門家や団体と協力し、新たな知識や視点を学ぶ機会を設け、全員が成長できる場を提供。
　また、若手の意見を取り入れ、自主活動を支援するプロジェクトに参加。迅速にこれらの活動を行えるためにデジタル プラットフォームを活用し、情報交換やニーズの把握によって優れた取組を推進していく。

# 大阪府富田林市
## 大阪府立富田林中学校・高等学校

食育・地産地消

SDGsでより良い社会を



## 取組内容

○ 高等学校では、科学教育の取組として「探究」という授業があり、令和7年度には、2年生の生徒6人で編成された「チームもぐもぐ」がSDGsに興味を持ち、子ども食堂に関連する取組を実施。
○ 富田林市コミュニティセンターかがりの郷で行われた「おおともみんな食堂」にボランティアとして参加し、配膳、片付け等を手伝った。
○ 全校生徒約1,000名に、「余っている食品ありませんか」というチラシを配布、校内にポスターを貼付、インスタグラムを運営しチラシをアップし宣伝したところ、多くの食材を確保しフードバンクである「フードサポートセンター」に寄付。

## 取組に至った経緯

○ チームメンバーの自宅付近に子ども食堂があることを知り、また富田林市に南河内初のフードバンクができたこともあり、子ども食堂に関連した探究を実施することとした。




フードバンクの宣伝用チラシ

## 取組の成果（受賞等）

○ 探究活動前と後のアンケートを全校生徒に行った結果、フードバンクの名称若しくは活動内容について学校内での認知度が39.6%から83.9%に上昇。また、子ども食堂については、認知度が93.8%から97%に上昇。
○ 農林水産省主催第2回みどり戦略学生チャレンジ近畿大会の優秀チャレンジ賞を受賞。

## 今後の展望

○ 「探究」という授業は、毎年それぞれの生徒がテーマを選ぶため、どのようなテーマを選択するか決まっていないが、後輩達も、SDGsというテーマを引き継いでもらいたい。

食育・地産地消

# 京都府精華町

## せいか食育劇団もぐもぐ




見て・感じて・楽しく学ぶ。
食べることが大好きになる劇団

## 取組内容

○ 地域の子どもたちが楽しみながら学べるオリジナルの食育劇を通して、「食」に関心を持ってもらう活動を実施。
○ 食べ物への感謝、好き嫌いを減らす工夫、規則正しい食生活や健康とのつながりなどを劇の中で紹介し、「教える食育」ではなく「気づきを促す食育」を大切にしている。
○ より多くの子どもたちに「食」の大切さを伝えるために、YouTube配信をスタートし、現在、8作品を配信中。
○ 保護者に対し、家庭での食育への理解を深め、日常の行動につなげてもらうことを目的に、食育推進紙「もぐもぐ通信」を配布。

## 取組に至った経緯

○ 平成20年4月から、精華町の住民が主体の健康づくりプロジェクトの一つとして活動を開始。
○「食べることの大切さ」、「正しい食習慣を身につけてもらいたい」、「お芝居なら楽しみながら自然と食への興味が湧き、家庭でも話題にしてもらえる」、そんな思いからこの活動に至る。

## 取組の成果（受賞等）

○ 第10回食育活動表彰（令和7年度　ボランティア部門　食育推進ボランティアの部）：審査委員特別賞
○ 平成28年度優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進に係る文部科学大臣表彰受賞

## 今後の展望

○ 今後も食育劇公演を継続し、子どもたちに「食の大切さ」を伝えるとともに、活動を担うメンバー自身の「やりがい・生きがい・健康増進にもつながる、地域に根ざした食育活動」として発展していきたい。



「かみかみもぐもぐでいいこといっぱい」


「おさらぴかぴか　ごちそうさま！」


「ぜーんぶ食べたよ　元気100倍」



「たべたらげんき　やさいのぱわー」


「赤黄緑で元気なからだ」


「お背中ピンでいただきます！」


「元気のみかた　赤　黄　緑」


「あか、き、みどりで大きくなぁれ」

検索　せいか食育劇団もぐもぐ　YouTube

# 大阪府守口市

## 株式会社京阪百貨店

食育・地産地消

食を通じてお客様と心でつながる百貨店に



産官学と農家さんのご協力で開催の「SDGs 食育フェスタ」と「食育体験ツアー」の様子

## 取組内容

〇地域のお客様に「食」を楽しみながら食育への関心を深めてもらうため、食育活動に取り組む大学、企業、行政と協力し、毎年５月に「SDGs食育フェスタ」を開催。
〇地元の大学と共同で、「Delicious（おいしさ）」と「Health（健康）」をコンセプトとしたオリジナルレシピ（D＆H　COOKING）を開発。
〇沿線の農家における「農業体験」をはじめ、地域の大学や企業と連携した「料理教室」や、生産者ー百貨店担当者ー消費者をつなぐ企画として「食の流通現場」見学ツアーを年４回開催。



沿線の農家さんで、トマトの収穫体験ツアー

## 取組に至った経緯

〇大阪府と京都府を結ぶ京阪電車沿線に位置する百貨店として、沿線の農地や特産物を守り継ぐ人々や新規就農者との対話を通じ、都市近郊ならではの苦労やこだわりに触れる。こうした生産者と消費者をつなげる役割を担うべく、沿線の農産物販売をはじめとした各種取組みを開始。

## 取組の成果（受賞等）

〇第10回食育活動表彰　教育関係者・事業者部門【企業の部】 農林水産大臣賞



地元大阪の大学の学生さんが、オリジナルレシピの料理試作中

## 今後の展望

〇「食」を通じた価値提供を通じて、豊かな暮らしと地域社会への貢献に取り組んでいく。

# 大阪府富田林市
## 乾農園

GAPの推進



地域特産の海老芋を伝統農法で！

## 取組内容

○ 100年続く農家の4代目で、なす、きゅうり、水稲の他、衰退しつつあった地域の特産である海老芋を「土寄せ」という伝統農法で生産。
○ 2020年4月にJGAP認証を取得し、作業の工程管理とそれに基づく従業員の労務管理を行うことにより作業効率が向上。




2020年4月にJGAP認証を取得

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 海老芋やナスは連作障害が発生するため、露地では海老芋 → なす → 水稲のローテーションで生産するとともに、水稲生産による稲わらを敷料に、また籾殻は堆肥に利用するなど有効利用に努めている。
○ 多くの外国人技能研修生を雇用しているため、JGAP認証の取得に当たり、栽培記録等を従業員とアプリで共有するなど生産管理を徹底。

## 取組の成果（受賞等）

○ JGAP認証取得後は、従業員の意識も変わり、自分の仕事に責任を持つようになった。
○ 富田林の千両なすにはGABA（ガンマアミノ酪酸）が多く含まれていることが大阪府環境農林水産研究所の分析で明らかになり、大阪で初めて「高めの血圧を低下させる」という機能性を袋に表示できるようになった。
○ 令和7年度農山漁村女性活躍表彰で農林水産大臣賞を受賞。




農林水産大臣賞

## 今後の展望

○ 栽培面積や人員を増やすのではなく、自社に見合った規模の栽培を行い、社員のモチベーションを高めるとともに効率の良い経営により売上を伸ばしていきたい。

GAPの推進

## 大阪府河南町

## 株式会社KANSOテクノス河南いちご農場

JGAPによる労働安全の確立



### 取組内容

○ 異業種からの農業参入でイチゴの生産を実施、JGAP認証を取得しています。
○ リスク管理の一環として、独自のリスクアセスメントシートや危険予知活動表を活用し、労働安全、品質保証、環境保全などを意識した経営を実践。さらに、他の企業や生産者による視察・研修の受け入れなどを通じて自社の事例を積極的に発信しています。

### 取組に至った経緯

○ 株式会社KANSOテクノスは「環境」「土木」「建築」の3つの分野を統合した総合エンジニアリング企業ですが、2020年に新たな経営部門として「株式会社KANSOテクノス河南いちご農場」を設立、イチゴの生産を開始しました。
○ その後の経営拡大に伴い、2023年にはJGAP認証を取得しました。



### 取組の成果（受賞等）

○ 活動が評価され、「令和6年度近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール」にて近畿農政局長賞を受賞。



### 今後の展望

○ 企業による農業参入は近年増加傾向にありますが、経営において様々な課題が生じます。今後も情報発信を積極的に行い、地域の牽引役として取り組みます。

# 兵庫県西脇市

## 株式会社いけうち

企業等の農業参入

霧を使った新しい栽培システム






高糖度の霧のトマト

## 取組内容

○ 株式会社いけうちは、セミドライフォグ噴霧水耕システム（IKEUCHIPonics®）、冷房・加湿・薬液散布システム（CoolPescon®）により、霧のコントロールによるストレス栽培で高糖度トマトを栽培。システムの販売と栽培実証のため、モデル農場で高糖度トマトの周年栽培を実施。



セミドライフォグ噴霧水耕システムの根域部

## 取組に至った経緯

○ 本業である産業用スプレーノズルは、農業に活用できると考え、その技術を基にセミドライフォグ噴霧水耕システム（IKEUCHIPonics®）冷房・加湿・薬液散布システム（CoolPescon®）を開発。（https://www.dry-fog.com/jp/products/ikeuchiponics/）

○ 工場がもともと西脇市にあり、何かあってもすぐ人が対応できる工場の近隣で農地を借用することができたため、施設を整備し農業に参入。

## 今後の展望

○ 試験農場では、他の品目の栽培試験を行っており、将来的に新たな作物を栽培する予定だが、当面はモデル農場の収益性をさらに高めることを優先。

○ 根域部をダイレクトに加温することにより暖房コストを抑え、農場の採算性を改善する技術を開発、実装。このシステムの安定性を高めて、収益向上につなげていきたい。

企業等の農業参入

# 兵庫県播磨町
## 兵神機械工業株式会社

自然光利用型水耕栽培システムで「誰でもできる農業」を実現！






オンディーネVH

## 取組内容

○ 兵神機械工業株式会社は、自然光利用型水耕栽培システム（オンディーネVH）によりサンチュ、クレソン、ベビーリーフなどを栽培。
○ 水耕栽培システムの販売を主として、自社栽培によるシステムの実証、栽培データの集積、分析や市況の動向を把握することで、水耕栽培システムを導入した後もユーザーに対し、データ提供や情報交換を通じて農場運営をサポート。

## 取組に至った経緯

○ 農業者の高齢化が進み、後継者不在により放置される農地に対して何かできないかと考え、本業の船舶用ポンプ等の技術を活かして自然光利用型水耕栽培システム（オンディーネVH）を開発し、本社のある播磨町で農業に参入。（https://hsn-farm.com/）



水耕栽培システムの栽培台とハウス

## 今後の展望

○ ハウスの増棟などによる栽培面積の拡大は考えておらず、現状の施設・人員で、栽培データに基づいた、より効率的な生産による売上増を目指す。
○ 当社の水耕栽培システムは、障がい者が働きやすいように、ユーザーに対し環境整備の提案や栽培マニュアルを提供。今後も、障がい者が普通に働き、社会貢献できる手法のひとつとなるよう、更なる改良を図る。

# 京都府京丹後市
## 福喜農園㈱



企業等の農業参入

お茶を京丹後市の基幹産業に

## 取組内容

○ 京都府京丹後市の国営農地32haで茶を栽培。
○ 京丹後市、JA、当社を含むお茶の生産者らが共同出資して、京丹後市内に製茶工場を平成22年に建築。
○ 平成29年には、茶農家と京丹後市、京丹後製茶（株）とで「京丹後茶GAP推進協議会」を設立し、翌年には、JGAP認証を取得。



福喜農園の乗用型茶摘採機

## 取組に至った経緯

○ 代表取締役の松村氏は、建設会社の2代目であり、これまで事業を順調に進めてこられたのは、地域に認められて存続できてきたという思いが強く、地域に対する恩返しがしたいと考えていた。
　そうした中、京都府と京丹後市から、お茶の生産について提案を受け、友人らと共に新たに福喜農園株式会社を平成18年7月に設立。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 設立メンバー4人はいずれもお茶の栽培経験がなかったが、茶園の実務担当者が参入前に京都府宇治田原町の茶園で研修を受け、参入後は京都府の丹後農業改良普及センターから栽培技術の指導を受けることで対応。

## 今後の展望

○ お茶は苗木を植えてから摘採できるまで5～6年掛かるが、これまで規模拡大してきた茶園の木が成木になったことから、今後は全ての茶園からの収穫が見込まれ、安定した売上が期待される。




京丹後市産のお茶

# 京都府亀岡市
## 一志アグリシステム合同会社

企業等の農業参入




## 取組内容

○ 休耕田や耕作放棄地を引き受け、地域の「人おこし・まちおこし・産業おこし」に貢献。
○ 年度ごとに栽培品目や品種を見直し、キヌヒカリ3haに加えて、極早生たまねぎ、きゅうり、なす、トマト、キャベツなども栽培。
○ 5棟のハウスを増設（計10棟）し、農薬の使用を極力控え環境に配慮しながら葉物野菜にも取り組んでいる。
○ 販売先は、京都府内の飲食店・加工業者・観光施設・社会福祉法人、大阪市内の弁当業者等。

## 取組に至った経緯

○ 福利厚生の一環として社員の癒し的な農作物栽培に始まり、今では、地域に貢献する農業の担い手と期待される企業に成長。
○ 消費者からの要望に応え、年度ごとに生産する品目を変更。



## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 初めて栽培に取り組む品目については、京都府認定指導者による指導を受けるとともに、品目ごとにチームを編成し、全社員が一丸となって対応した。
○ 生育期の高温・水不足が農産物に大きな影響を与え、水管理に多くの労力を要した。





増設したビニールハウスと葉物野菜、規模拡大した水稲

## 今後の展望

○ スマート農業の導入と渇水対策に取り組むとともに、地域との連携・協力を大切に、経営面積を20haに拡大することを目標とする。
○ 農業に従事する社員の雇用を確保しつつ、売上げ一億円達成を目指す。

# 京都府福知山市

## 井上株式会社　THE610BASE（ムトベース）

企業等の農業参入

廃校を活用し地域活性化
農業と文化の拠点として活躍



## 取組内容

○ THE610BASEは、廃校を活用した「農業と文化の拠点」であり、農業を楽しむ生き方「FUNMER」※を体感できるキャンパス。※「FUNMER」とは「FUN（楽しい）」と「FARMER（農業者）」を組み合わせた造語。
○ いちご農場（ビニールハウス7棟21a）ではいちご狩り、館内では採れたてのいちごが楽しめるカフェを運営。
○ 校長室であった場所は「Primary Barrels」と称し、地域のホップを使用してクラフトビールを醸造。
○ いちご農園・クラフトビール・カフェ・アートギャラリーを通じて、人が集い、食べ、学び、遊び、表現する場を育み、農業の楽しさや人とのつながりなど、農業関係人口の拡大を実践。（R6実績約6千人→R7実績約2.2万人）

## 取組に至った経緯

○ 地域密着企業として、地元の課題解決に貢献できる新規事業を興そうと農業へ参入。
○ 社内に農業を担うアグリライフクリエイト課を開設し、地域の課題解決に着手。
○ 令和2年THE610BASE（ムトベース）オープン。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 廃校の再利用や運動場の農地化など、手続きが分からず苦労した。
○ 廃校の活用のために、地域・行政・民間企業などと協議の上、事業を進めた。

## 今後の展望

○ 中六人部地区から農業を楽しむ「FUNMER」を全国に発信。
○ 施設の交流人口を年間3万人（R7実績約2.2万人）に拡大することを目指す。
○ 関わる全ての人々と幸せの渦「happy spiral」※を起こし、皆さんを笑顔にすることで、持続可能な素晴らしい地域社会の実現を目指す。
※「happy spiral」とは「happy（幸せ）」と「spiral（渦）」を組み合わせた造語。



全景、クラフトビールと施設内の様子

# 奈良県大淀町
# 近鉄ふぁーむ花吉野

企業等の農業参入




## 取組内容

○　敷地面積1.5haにある農業用ハウス(約5,000㎡)で高糖度トマトを生産。そのトマトだけを使用したトマトジュース「HANAYOSHINO」を商品化し、販売を開始した。



安心・安全に丹精込めて生産

## 取組に至った経緯

○　近畿日本鉄道の所有地の有効活用と、近鉄百貨店をはじめとするグループの店舗やホテル、レストランへ、高品質で安全・安心な野菜を届けるという考えのもと、2012年に「近鉄ふぁーむ花吉野」を開業した。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○　トマトの糖度を高めることを目的に、水分ストレスを与える栽培方法を試行錯誤した結果、必要最小限の水分で効率的に栽培できる技術を確立した。
○　今後は、自社ブランド化を進めることで、さらなる付加価値の向上に取り組んでいくことが課題となっている。




トマトジュース　商品
“HANAYOSHINO”

## 取組の成果

○　「HANAYOSHINO」は、生食でも十分に美味しい自社栽培トマトを厳選し、1瓶に10個以上使用しており、その品質が高く評価され、2026年3月末時点で累計出荷本数は10万本を突破した。
また、モンドセレクション2026において「最高金賞」を受賞した。

## 今後の展望

○　今後は、お客様ニーズに応える商品づくりと、農業を通じた沿線地域の地域創生にも取り組んでいきたい。

企業等の農業参入

# 滋賀県草津市

## 株式会社メタルヴィレッジ





左から、代表取締役社長の大石氏と農業部門責任者の木下氏

## 自慢のいちごで地域振興に貢献していきたい

### 取組内容

〇令和7年3月に農業参入し、いちご農園「湖と苺」を運営。15連棟と4連棟のハウスで、滋賀県のオリジナル品種「みおしずく」など10品種を栽培。
〇いちご狩り体験を提供する15連棟のハウスには、関西最大級の広々としたスペースに最新の暖房設備を導入し、いちごに最適な温度管理を徹底。
　また、通路幅を広く取るとともに、吊り下げ式栽培を選択することにより、ベビーカーや車椅子のお客様にも快適にいちご狩りを楽しんでいただけるように工夫して、バリアフリー化に取り組んでいる。
〇直売所では取れたてのいちごや、いちごをふんだんに使ったスイーツ等を販売。



広々としたハウス内

### 取組に至った経緯

〇親会社である株式会社メタルアートは自動車などに使用される鍛造品の製造等を行っている企業で、農業に取り組むことで地域に新たな雇用を生み、収穫体験・食育体験などを通じて地域振興に貢献できるのではないかという経営者の思いと、働き方の選択肢のひとつとして面白いという従業員の思いが重なり、株式会社メタルヴィレッジを設立し、農業事業に参入。
〇栽培技術が確立されており、6次産業化の展開も期待できるいちごを栽培することとした。



直売所

### 今後の展望

〇 いちご狩りの目標集客人数は年間2万人で、直売所でのスイーツの販売量の増加も目標に掲げている。
〇 業者向けのいちごの需要があり、それに応えていくことも検討している。



いちごのスイーツ

# 京都府久御山町

## ロックファーム京都株式会社

新規就農・担い手、担い手育成



魅力的な農業で人を育てる

## 取組内容

○ コンセプトは「かっこいい農業」「ワクワクを創造する」。新しい発想から農業の可能性を探求。
○ 約50名の従業員（20～30代中心）のスキルアップを図り、独立就農を支援するほか、トレーニングファームとして新規就農希望者を受け入れたり、学生への講演なども行っている。
○ 九条ねぎ、ホワイトコーン、黒枝豆等の生産をはじめ、いちご観光農園を開設する等、多角的な経営に取り組む。
○ 自社オリジナルブランド「京都舞コーン」の一部を、食品メーカーと共同開発しコーンスープに加工。

## 取組に至った経緯

○ 平成30年　就農、既存の農業のイメージや枠を超えた農園を目指す。
○ 平成31年　「ロックファーム京都株式会社」として法人化。
○ 令和元年　「株式会社SAMURAI　FARMERS」を若手生産者で共同設立。
　共同での周年販売が可能になり、量販店など販路開拓も実現。
○ 令和3年　人材育成に着手し、「就労継続支援事業所ロックスターズ」設立。



代表から学生への講義

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 新規就農希望者だけでなく、障がい者や子育て世代など多様な人材に対応した、働きやすい環境整備や独立就農時の支援体制を充実。
○ 品質を重視し選別を厳格にしており、B級品のコーンは食品メーカーと提携し、コーンスープに加工。
○ 販路が拡大したことにより、輸出も視野に入れ GLOBALG.A.P.を取得。

## 今後の展望

○ 農業の担い手を育成するという信念で、要請があればどこへでも講演に赴く。
○「京檸檬プロジェクト」などの京都府全域で連携できるネットワークに参加し、新たな取組に果敢に挑戦。



「京都舞コーン」を加工しコーンスープに

# 京都府京丹後市
## シーズファーム株式会社
## （鶴　龍郎）

新規就農・担い手、担い手育成




## 取組内容

○ 鶴氏は平成26年に京都府京丹後市に移住。平成30年に本格的に就農し、令和3年には知人と2人でシーズファーム株式会社を設立。
○ 会社を立ち上げられた当初は、露地野菜を中心に農業に取り組まれていたが、会社設立2年目に方針転換し、農業でありながら工業的な生産で販売が可能なサツマイモ苗等の育苗中心に変更。
　設立当時ハウス10棟、露地1haだった農地は、令和7年にハウス49棟、露地4haに拡大。

## 取組に至った経緯

○ 東日本大震災の災害ボランティアの経験から、人に奉仕することにやりがいを感じ、フィリピンで国際協力の仕事を視察。
○ 現地の従事者に指導してもらい「自分自身に必要なものは経営スキル」だと感じるとともに、どこの国であっても必要である食と農業に関心を持った。
○ 出身は大阪で、農業を始めようとした時に「京ブランド」と観光農園に関心があり、最初は京都市周辺で農地を探し始めたが適当な農地が見つからず、候補地を求めて徐々に北上。海が開けていて景観が良い京丹後市に行きつき、その土地に魅力を感じて、すぐに移住。



鶴氏とシーズファーム株式会社の方々

## 今後の展望

○ 現在も農業従事者だけでなく他業種コミュニティとの関わりを大事にしており、たくさんの関係者の方々と協力し事業拡大を目指しており、令和6年には貯蔵庫を利用した養鶏を始め、鶏肉販売に取り組んでいるが、最終的には自社での食肉加工や販売、飲食店の経営まで一元管理し、直接お客様の笑顔が見られる商売もしたい。

# 奈良県生駒市

## いちごの縁F（エッフェ）藤原大輔



新規就農・担い手

いちごで紡ぐ様々な人との縁づくり

## 取組内容

○　平成30年に奈良県立なら食と農の魅力創造国際大学校を卒業後、6アールの農地を借りてハウスを整備し、奈良県の育成品種「古都華」を中心にいちご栽培を開始。
○　現在の経営耕地面積は、いちご26アールのほか野菜類が20アール。いちごは「ならあかり」も導入し、野菜はさつまいも「ハロウィンスイート」、「パープルスイートロード」などを栽培し、直売の他、地域の飲食店へも販売。



農地を借りてパイプハウスを整備

## 取組に至った経緯

○　食べるものを作ることで、地元の人や消費者とのつながりを感じながら人付き合いを楽しむことができるとともに、定年に関係なく働き続けることができる農業に魅力を感じ、非農家出身ではあるが、民間企業から農業への転職を決意した。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○　希望する面積の農地を借りることができなかったが、小さな面積から経営実績を積み重ね、地元での人間関係を構築していくにつれ、農地を貸してくれる方が増えていった。



地域の飲食店で加工されたさつまいも

## 今後の展望

○　年間を通じて収益を安定させるため、たまねぎ、さつまいも、じゃがいも等の野菜類の栽培面積を拡大し、収益が安定してきた段階で、いちごの栽培面積を50アール程度まで拡大したい。
○　地域の方から要望のあるハーブ類や藍などの栽培にも取り組んでいきたい。

# 奈良県葛城市
# 寺田農園株式会社

新規就農・担い手、担い手育成




中央：取締役の濱田正彦氏　　右：代表の寺田昌史氏

## 取組内容

○　収入と雇用の安定化を図るため、年間を通じて収穫が可能で労務管理のしやすい水耕栽培を導入し、エディブルフラワー（食用花）やハーブ、マイクログリーンなどを栽培している。
○　安定した経営を実現するため、競合の少ない品目及び販売先を選定し、積極的に販路開拓を行っている。

## 取組に至った経緯

○　約35年前に海外農業研修に参加し、アメリカの農場で現地の労働者をまとめるスーパーバイザーを経験したことで、「人を雇用する農業」、「生産性の高い農業」を日本で実践したいと考え就農した。
○　若い従業員のアイディアを大切にしており、「農業はこうあるべき」ではなく、若い従業員のアイディアを活かした生産・販売にも取り組んでいきたいと考えている。


水耕栽培しているエディブルフラワー

## 取組の成果（受賞等）

○　令和3年度　農業振興功績者表彰　優秀賞

## 今後の展望

○　これからも農園を発展させていくためには、親族内継承には拘らず、経営感覚の優れた者に継承することが重要と考え、令和5年度にこれまで農園を支えてきてくれた従業員１名を取締役に任命し、令和8年度に事業継承予定。
○　新規事業であるいちごの観光農園と農産物直売所を整備し、自社の野菜だけでなく近隣農家が栽培した野菜の販売や地域における雇用の創出を目指している。

# 和歌山県みなべ町
## みなべ梅郷クラブ

新規就農・担い手、担い手育成

梅農家の若手後継者グループが歴史ある梅産地を未来につなぐ



## 取組内容

○ 梅の受粉に欠かせないニホンミツバチを守るプロジェクトを令和2年に立ち上げ、地域住民や大学生を巻き込み、巣箱作りや巣箱の設置、放棄園や人工林伐採跡地にニホンミツバチの蜜源となる広葉樹の植林に取り組む。

○ 高齢化による担い手不足により増加傾向にある耕作放棄地対策に取り組むため、令和元年度にみなべ町の梅農家を対象にアンケートを行い、放棄園の実態等について調査。「みなべ梅郷クラブ」が放棄園の梅の木の伐採を有償で請け負う活動を令和2年度から開始。伐採した放棄園には、地元森林組合と連携し、紀州備長炭の原料となるウバメガシを植樹するなど、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を後世につなぐ取組を展開。

○ 主力品種である南高梅は自家不和合性品種で、開花期の気象条件等が結実に大きく影響することから、南高梅に代わる新品種の開発や品種改良に向け、令和4年度に南高梅の評価や新品種に関するアンケートを行い、梅農家から意見やアイデア等を集約。自家和合性品種で南高梅と同等の品質を持ち、樹勢が強く、収量が多い等の特性を持ち、特徴のある新品種の開発を目指し、育成に取り組む。

○ 「みなべ梅郷クラブ」と大手飲料メーカーが連携し、南高梅の味わいを再現した新しい炭酸飲料を開発・販売することで、南高梅を全国に発信。

## 取り組みに至った経緯

○ みなべ町の梅農家の若手後継者でつくる「みなべ梅郷クラブ（4Hクラブ）」は、ニホンミツバチが激減している現状や放棄園の増加に危機感を抱き、歴史ある梅産地を守るため、クラブ内にプロジェクトを立ち上げ、ニホンミツバチの保全や放棄園の伐採、広葉樹の植樹等、プロジェクトリーダーを中心に地域の課題解決に取り組む。



広葉樹を植林する梅郷クラブメンバー

## 取組の成果（受賞等）

○ 第60回、第61回全国青年農業者会議のプロジェクト発表（地域活動部門）で農林水産大臣賞（2年連続）

## 今後の展望

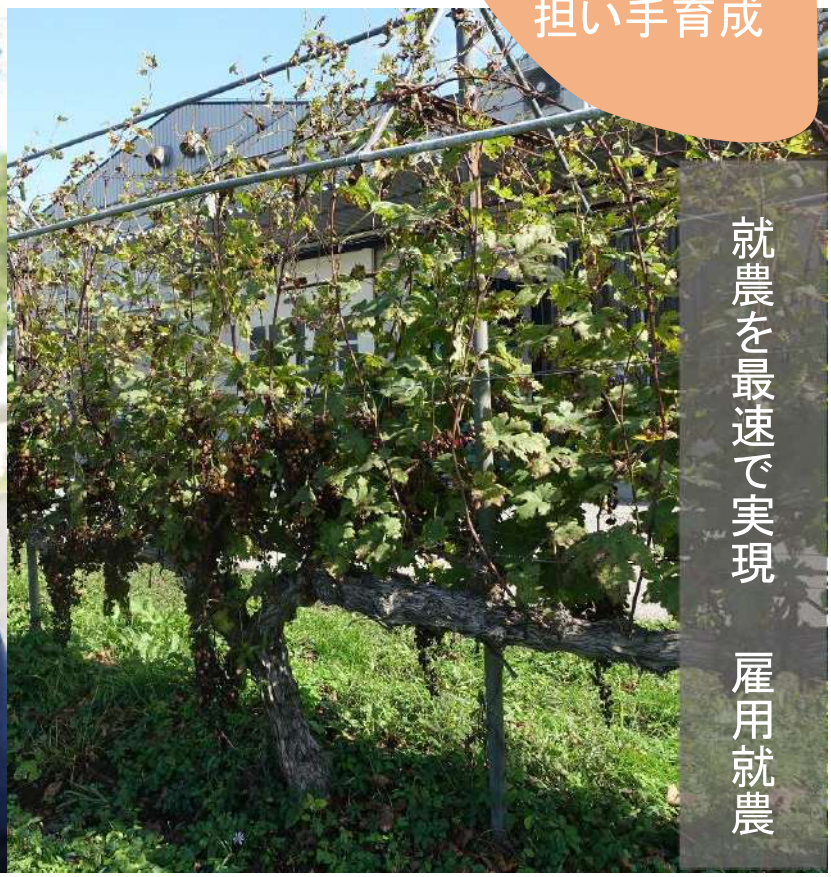
○ 先人が築いた伝統を大事にしつつ、最新技術も兼ね備えた経営を目指しながら、400年前から続いている歴史ある梅産地や世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を未来に継承する活動を継続していきたい。

新規就農・担い手、担い手育成

# 京都府京丹波町

## 丹波ワイン株式会社
## 岡市　昌樹　氏





就農を最速で実現　雇用就農

## 取組内容

○ 岡市氏が就農された丹波ワイン株式会社は、昭和54年創業、京都府内のパイオニア的存在のワイナリー。創出されるワインは数々の賞を受賞。「京都の食文化に合うワイン」をコンセプトに、国内の高級料亭やレストランのシェフ、ワインソムリエに支持され、愛されている。
○ 丹波ワイン株式会社では、自社農場のこだわりぶどうの栽培を担う優秀な人材を求めており、令和5年に京都府立大学で果樹栽培を専攻していた岡市氏を採用。
○ 国内の先進地での研修や海外での研修機会を設けることで、スキルアップを図る。



フォークリフトの免許も取得

## 取組に至った経緯

○ 岡市氏は、大学で果樹を専攻。研究を通じてぶどうに魅了され、卒業後はぶどう栽培を職業にと考えたが、就農準備に相当な資金や研修、栽培期間がかかり、その間の所得補償もないことから、自営就農ではなく雇用就農を選択した。

## 取組（労働環境）

○ 農園管理にとどまらず、他部署での業務経験ができ、やりがいと成長ができる環境。
○ 給与、社会保障完備、空調服の支給、社員同士のフォロー体制も整備。
○ 年次休暇やフレックス制度などを整備し、労働時間にも柔軟に対応。
○ 農園責任者の実践指導のほか、国内外での手厚い研修カリキュラムを整備。



ワインの醸造ラインも経験

## 今後の展望

○ ぶどうの栽培や研究、ワイナリーに関わるなど夢に描いていた事が最速で実現できており、海外研修への参加も楽しみにしている。今後は、研修や実践を通じて農園管理を一手に任せてもらえるように成長し、さらにワインソムリエにも挑戦したい。

# 京都府和束町

## 京都おぶぶ茶苑合同会社

都市と住民を結ぶ取り組み



海外向け発信によるインバウンドの横展開

## 取組内容

○ 日本茶を世界へという理念のもと、国内外でのPR活動や日本茶を普及させるため地域と連携したイベントに取り組む。また、インターンシップで若者を受け入れるなど、積極的なビジネス支援を行っている。
○ インバウンド需要に応じたインフラを整備し、他府県にも活動拠点を設置。

## 取組に至った経緯

○ 平成16年通販サイト「京都おぶぶ茶苑」を開設し、日本茶（荒茶）を世界各国へ販売。
○ 日本茶の魅力を世界中に伝えるため、積極的に情報発信を行う。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 海外での日本茶の知名度が低く、販売が低迷。茶文化を含めた普及啓発が必要と感じた。
○ 国内外から会員を募り「茶畑オーナー制度」を確立。抹茶工程見学設備を整備し、日本茶体験のツーリズムやインターンシップに対応。
○ 一般社団法人国際日本茶協会を立ち上げ、日本茶ビジネスの拡大や日本茶文化の普及に貢献。
○「日本茶で世界を平和に」をテーマに長崎県にも新たな法人を設置。
○ インバウンド需要に対応した卸売専用サイトを設置。



年間3,000人以上のインバウンド向けツーリズムを受け入れ

## 取組の成果（受賞等）

○ 令和3年第8回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」において「特別賞－食ブランド賞」を受賞
○ 内閣府が主催するCJPFアワード2025において「大阪・関西万博特別賞」を受賞

## 今後の展望

○ 日本の伝統文化を伝え新たな販路拡大のため、インターン生を中心とした情報発信を行う。

# 和歌山県紀美野町

## 小川地域棚田振興協議会（中田の棚田再生プロジェクト）

農業との多様な関わり

美しい棚田の自然と農業文化を次世代に残したい





棚田の水資源を支えてきた貴重な土木遺産「竜王水」

中田の棚田

## 取組内容

○ 令和元年に制定された棚田地域振興法に基づき、同年12月、「中田の棚田」がある紀美野町小川地域が指定棚田地域に指定され、翌年２月に小川地域棚田振興協議会を設立。地域おこし協力隊（２名）、農家、移住者、地元住民など、協議会の構成員以外も参画した「中田の棚田再生プロジェクトチーム」では棚田の自然や文化を未来に伝えるため、多様な関係者が関わりながら、棚田の再生・維持管理、イベント等の交流事業や関係人口の定着に取り組んでいる。

○ 令和３年３月、登録制ボランティア「棚田サポーターズ」の募集を開始。主に町外からの参加が多く、令和６年度は約100名が登録。

○ 令和２年に3aの再生田に水稲の作付を開始してから作付面積は年々増加し、令和７年産水稲の作付けは180aにまで拡大。水稲は無農薬・無施肥による自然栽培で、生物多様性の保全に配慮した生産活動に取り組む。

## 取組に至った経緯

○「中田の棚田」は、中世（1425年）には稲作が行われていたことが検証できる歴史的に貴重な棚田であるが、耕作者は少なく、そのほとんどが耕作放棄された状態であった。

○ 紀美野町まちづくり推進協議会のまちづくり部会で、「中田の棚田」の再生活動についての協議が始まり、「美しい棚田の自然と農業文化を次世代に残したい」という思いをもった人々が集まり、令和２年２月、小川地域棚田振興協議会を設立し、「中田の棚田再生プロジェクト」を立ち上げ、棚田の再生に向けた活動を開始。



棚田サポーターズによる棚田再生の作業風景

## 取組の成果（受賞等）

○ 令和４年２月、「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」に認定

○ 令和７年10月、豊かなむらづくり全国表彰事業で農林水産大臣賞受賞

## 今後の展望

○ 棚田の維持管理には、耕作者の確保が欠かせないため、育成と定着支援に取り組みたい。棚田米販売のほか、古民家を活用したゲストハウスや交流施設を整備し、棚田を活用した観光・地域振興にも取り組みたい。このようなコミュニティビジネスから得られる資金を循環させ、持続可能な取組にしていきたい。

農業との多様な関わり

# 滋賀県竜王町
## 農事組合法人ジョイファーム山中

支え合う中心に農業を据え、再生することで課題を克服しよう


女性部畑作（自然薯）販売開始


第3の竜王山（さん）を背景に作業開始


非農家若手の農機運転


作業方法の改良
ベテランも協力

## 取組内容

〇農家・地主合わせて45戸の構成員で、「みんなの力と知恵で作ろう未来のジョイファーム山中」をスローガンに、環境にこだわった水稲の作付けや水田転作として稲WCSの展開、非農家若手も巻き込んだ大型農機免許取得（6年間で15名）を推進。さらに実際の農作業機械の運転作業への参画や共同作業への参加を通じた後継者の育成、女性部を中心とした特産品の栽培・開発や自治会行事と連携し地域の親睦にも取り組んでいる。
〇令和7年度からは、ドローン直播により採卵用地鶏向けの飼料米の生産を始め、8年度からは、稲WCS及び環境こだわり米にもドローン直播を導入している。
〇7年度から、バイオマス産業都市の取組として、バイオマス液肥を施用し稲WCSの栽培実証を行っている。

## 取組に至った経緯

〇山中地区は、平地農業地域にあるものの、ほ場条件は中山間地並に厳しく、草刈りをはじめ農作業は重労働であり、少子高齢化等により農業従事者が急激に減少する中、農業機械の更新や農業の維持はもちろん、集落の神事や行事の継続の危機など、将来の見通しが立たない状況であった。
このため、集落住民が生きがいを持って健康で明るく暮らしていける地域づくりを目指し、平成26年に農事組合法人ジョイファーム山中を設立した。

## 取組の成果（受賞等）

〇令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）において、農林水産大臣賞を受賞。


秋の収穫祭


ロールベールにお絵描き

## 今後の展望

〇預かる農地が増加していることもあり、次世代の担い手となる若手にさらに興味を持ってもらうため、ドローンの免許取得やザルビオの活用といったスマート農業にも計画的に取り組んでおり、専従化を視野に入れながら若手の農業経営体制を構築していきたい。
〇耕作放棄地対策として、燃料用作物であるジャイアントミスカンサス等の栽培を検討している。

# 滋賀県守山市

## もりやま食のまちづくりプロジェクト

農業との多様な関わり

産学官が連携し「食と農水」をテーマに地域活性化を図る




パール灰を使用し栽培した「もりやまびわ湖パール野菜」

## 取組内容

○ 守山市で農水産物の生産から消費に至るまで「食と農水」をテーマとして、地産地消、食育、健康、6次産業化の各分野における取組を効果的に結び付け、新たな事業展開をすることにより、地域活性化を図ることを目的として産学官が連携し活動。
○ 矢島地区に伝わる在来種のかぶらを存続の危機から復活させ、滋賀県近江の伝統野菜に認定されたことを契機に「守山矢島かぶら」として、地域ブランドを確立。
○ 琵琶湖で養殖する淡水真珠の貝殻を「パール灰」として肥料に使用し、生産した野菜を「もりやまびわ湖パール野菜」としてブランド化に成功。SDGsに準ずる農業と水産業連携の環境循環型農法により販路を開拓。

## 取組に至った経緯

○ 守山矢島かぶらの消滅を危惧した生産者から相談を受け、当該地区外でも生産可能であることを実証し、市内全域に生産者を増やしてブランド化を実現。
○ 真珠養殖で毎年1トンもの貝殻が産業廃棄物となるため、活用を検討。
牡蠣殻を土壌改良に使用する事例を参考に、燃焼処理した「パール灰」を使用した野菜（イチゴ、キャベツ、ブロッコリー、小松菜等）の実証栽培により効果を確認し、ブランド化へ展開。



びわ湖の淡水真珠とパール灰



パール野菜（ブロッコリー）の収穫体験

## 取組の成果（受賞等）

○ 伝統野菜復活が地域活性化に貢献したと評価され、「守山矢島かぶらの会」を近畿農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第3回）コミュニティ部門に選定。かぶらの漬物が大河ドラマで登場するなど、特産品として知名度が向上。
○ パール灰活用の取組が「ディスカバー農山漁村（むら）の宝アワード」（第11回）コミュニティ・地産地消部門に選定。栽培品目は15種類に増え、収穫体験や学校給食への活用により、地産地消の拡大と所得向上に繋がっている。

## 今後の展望

○ 肥料として「パール灰」の商品化を検討。使用する生産者を増やし取組拡大を図る。
○ 大学と企業が連携し、パール野菜を使用した総菜を販売するなど、パール野菜の認知度を高め、生産量や販路を拡大していく考え。



パール野菜を使用した給食

# 大阪府豊能町

## 株式会社里山創生研究所

農業との多様な関わり









休耕農地の棚田を再生し、ぶどう畑へ

## 取組内容

○ 負の遺産であった鳥獣害や荒廃農地を、ジビエ・ワイン・宿という 「地域の宝」として再定義し、「獲る・育てる・醸す・振る舞う」を自ら体現。
○ 2026年3月のワイン初リリースを機に、地域内外の人が集う「とよのワインフェス」を開催。開墾や狩猟等の体験を通じ、里山を次世代へ繋ぐ「自分事」の場として、持続可能な関係人口を創出している。

## 取組に至った経緯

○ 料理人として「究極の地産地消」を追求し、自ら獲ったジビエと自ら醸したワインを、自分の店で提供するという夢の実現を目指した。夢の達成には里山の課題解決が不可欠で、利益を生み、誇りを持って次世代に手渡せる「持続可能な農業」の形を構築するため、この挑戦を開始。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ SNSでのビジョン共有により「開墾メンバー」を結成。個人の限界を突破し、広大な笹薮を美しいぶどう畑へ蘇らせた。水はけの悪い棚田に独自の暗渠排水を整備。地形を活かして地道な土壌改良を重ね、高品質なぶどうが育つ環境を構築した。過酷な作業を仲間と「食」を囲む楽しみに変え、開墾を里山の未来を共に醸す至福のプロセスへと昇華させた。

## 今後の展望

○ 里山を新たな交流拠点へをテーマに、火曜の夜に赤提灯を灯す「火曜灯（かようび）」 等を通じ、地域住民と訪問者が肩書きなく語り合い、新たな発想が生まれ る「現代の寄合所」を醸成する。
○ 企業や行政との連携を加速し、過疎地の課題を価値へ変換する「豊能モデル」を確立し、里山の持続可能な未来を、広く次世代へ発信していく。




近畿農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（令和6年度）に選定された
（写真中央が代表取締役 山上忠彦）




第5回「おおさかアグリイノベーションション グランプリ」（令和7年度）に選定された
（写真右が代表取締役 山上忠彦）

# 奈良県曽爾村

## 一般社団法人曽爾村農林業公社



農業との多様な関わり

# 高原農業の存続に向けた中間組織による挑戦

## 取組内容

○　一般社団法人曽爾村農林業公社は、村外から来た新規就農者の育成や、村内の水田を一時的に借り受け、直営ほ場として管理することで、水田の荒廃を未然に防止している。
○　令和７年度からは米づくりの担い手創出の取組として、田植えや稲刈り、除草作業などの米づくりのノウハウ、田植機やコンバインなどの農機具の操作方法、地域で水田を管理する上で大切なことなど、共に作業しながら覚えてもらうことを目的とした「曽爾こめづくり実習」を開催している。

## 取組に至った経緯

○　近年、村内の農業者の高齢化が進み、米づくりの継続が難しくなったため、同公社へ管理を依頼する水田が増え続けている一方で、住民の中には、自家用に米づくりをしたい方、他の仕事をしながら販売用に米づくりをしたい方、同公社のオペレーターを希望する方など米づくりへのニーズは高まっていることから、「一人でも米を作れるようになってもらいたい」との思いで「曽爾こめづくり実習」を始めた。

## 取組の成果

○　令和７年度は22回の実習を開催し、参加人数は延べ40名。
○　参加者のうち、令和７年に１名、令和８年に１名、計２名が村内での水稲栽培を開始。



公社職員からコンバインの操作方法を教わる参加者

## 今後の展望

○　公社が管理している水田や、村民が栽培できなくなった水田が、「曽爾こめづくり実習」の参加者へバトンタッチされ、村内の水田が継承される流れの構築を目指す。
○　米づくりを経験したことのない村民にとっても、「曽爾こめづくり実習」に参加することで、米づくりが日々の生活の一部となることを目指す。

## 奈良県奈良市

合同会社TEA UEKUBO

農業との多様な関わり



# 大和茶の産地からお茶の魅力を伝えたい

## 取組内容

○　合同会社TEA UEKUBOでは、茶畑8.4haで茶を栽培。うち40アールは和紅茶用で有機JAS認証を取得。
○　ティーサロン「TEA UEKUBO」を運営し、手もみ製茶の体験をはじめ、茶の販売や飲食の提供を行う。

## 取組に至った経緯

○　古くから栽培されてきた奈良市月ヶ瀬地区のお茶と、地域資源でもある茶畑の景観を残したいとの思いから、高齢化等により放棄されつつある茶畑を継承。
○　有機栽培によるお茶は、農薬の使用に抵抗感を持つ方々からのニーズがあり、特に海外の消費者からのニーズが高いと感じている。
○　お茶の魅力をより多くの方に伝えたいとの思いから、「手もみ製茶」の実演や体験を楽しめるティーサロン「TEA UEKUBO」を開業した。



「手もみ製茶」の実演や体験を楽しむことができるティーサロン「TEA UEKUBO」

## 取組の成果（受賞等）

○　2017年（平成29年）全国手もみ茶品評会　農林水産大臣賞

## 今後の展望

○　お茶の品質向上を目指し、今後も改植や台切りによる茶畑の若返りに継続して取り組んでいきたい。
○　ティーサロン「TEA UEKUBO」では、ツアー申込者に限らず幅広いお客様が利用できるティーサロンとして、お茶と飲食のコラボレーションにより茶の魅力を発信していきたい。
○　国内外で高まる碾茶の需要に対応するため、組合員である農事組合法人ティーポート月ヶ瀬に碾茶の製造ラインを整備し、碾茶の生産を行う予定である。



玄米茶、煎茶、紅茶などを独自ブランド「しずく」として販売

# 和歌山県有田川町

## 和歌山大学観光学部　地域連携プログラム
## 有田川町沼地区LPP　棚田ふぁむ

農業との多様な関わり

学生との協働による棚田保全・集落支援活動



## 取組内容

○ 過疎・高齢化が進む有田川町沼の棚田地域で、学生が棚田の一部を借りて、田植え、稲刈り、精米まで一連の作業を担い、棚田の景観維持に貢献。また、地域住民との協働により、①棚田保全活動、②地域農業支援活動、③地域との交流活動、④地域のPR活動など、地元集落の活性化に向けた取組を支援。
○ 令和7年度は、田植え、山椒収穫支援、稲刈り、秋祭り支援、桜の植樹、地元交流会・大学内で棚田米の配布（アンケート実施）、天神祭の支援など、計7回の現地活動を実施。
○ 活動に参加できない地域住民に活動内容を知ってもらうため、コロナ禍以降休刊していた地域住民向けの活動報告誌「ふぁむからあのね」を令和6年度に復刊し、沼地区の住民に配布。
○ 長期にわたる地域との協働活動や学生の定期的な訪問と交流活動により、学生と地域住民は強い絆で結ばれている。

## 取り組みに至った経緯

○ 第19回全国棚田（千枚田）サミットの開催決定を契機に、県が企画した「棚田モニターツアー」に和歌山大学観光学部生が参加。
　農家の高齢化、担い手不足により、耕作放棄地が年々拡大している地域の現状を目の当たりにした学生から、「棚田保全ボランティア」のアイデアが出されたことをきっかけに、平成23年7月から「棚田ふぁむ」の活動を開始。



有田川町沼地区で行われた田植え作業

## 取組の成果（受賞等）

○ 令和4年度つなぐ棚田遺産感謝状（未来へつなぐ部門）

## 今後の展望

○ 地元交流会では、1年間の活動を振り返り、有田川町沼地区の未来を考えるワークショップを開催するとともに、学生と地元住民の親睦を深めており、今後も継続的に地域と関わり続け、集落に活気をもたらすことができるような活動をしていきたい。また、ワークショップにおいて地域住民から提案のあった「郷土料理」の継承について、これまでの取り組みに加え、新たな活動にも挑戦したい。

# 和歌山県みなべ町

## みなべ町 × 一般社団法人 日本ウェルビーイング推進協議会

農業との多様な関わり




©PCW Japan

## 取組内容

○「みなべ・田辺の梅システム」として世界農業遺産に認定されているみなべ町で、梅収穫ワーケーション（主催・運営：一般社団法人日本ウェルビーイング推進協議会（PCW Japan））の運営メンバーが、梅農家の選定、告知、参加者の募集、梅農家とのマッチングを行い、梅農家の労働力不足の課題解決に取り組む。

○ 令和4年に11戸の梅農家が参画し、主に首都圏で働く123人（延べ240人）のボランティアにより始まった取り組みは、参画農家や参加者を拡大しながら、不作であった令和6年及び7年においても継続して実施し、令和7年までの4年間の参加者はのべ1,260人に上る。

○ 梅農家は収穫期の労働力が確保できるとともに、参加者に非日常体験を提供し、参加者及び受入れ農家双方のウェルビーイング（心身の健康や幸福）の向上が図られている。国や自治体からの補助に頼ることなく、継続的な取組を通じて、関係人口の創出と地域の活性化に繋げている。

○ 梅収穫ワーケーションは行政主導ではなく、日本ウェルビーイング推進協議会とみなべ町の農家、町民有志が主体となって取組みが行われている。行政はサポート的な支援を行うことで、官民地域連携の良好な関係が構築されている。

## 取り組みに至った経緯

○ 全国で「一次産業ワーケーション®」を推進する日本ウェルビーイング推進協議会の島田由香代表理事が、梅農家の繁忙期に労働力不足の課題を抱えるみなべ町関係者に、梅収穫ワーケーション（通称：梅ワー）の企画を提案。島田代表理事の熱意に共感した農家、町民有志が話し合いを重ね、みなべ町のサポート的な参画を経て、令和4年から取組をスタートさせる。



収穫期の南高梅
（画像提供元：みなべ町）

## 取組の成果（受賞等）

○ 令和5年度地方創生SDGs官民連携優良事例に選定（内閣府）
○「TUNAGUプロジェクト」が、令和6年度地方創生担当大臣賞を受賞（内閣府）
○ 令和7年度農山漁村振興の貢献活動に係る取組証明書を取得

## 今後の展望

○ 令和4年にスタートした取組は、翌年から企業向けの人材育成プログラム「TUNAGU」として、他地域にも好影響をもたらすなど、更なる広がりを見せている。梅収穫ワーケーションを通じて、みなべ町のPRや関係人口の増加に貢献し、みなべ町ならではの体験による心身のウェルビーイングの向上に取り組み、地域の活性化を目指したい。

# 和歌山県かつらぎ町
# 天野の里づくりの会

農業との多様な関わり

世界遺産の天野の里で企業と連携し、農村景観を活用したむらおこし



「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された丹生都比売神社

## 取組内容

○　高野山の麓に位置するかつらぎ町天野地区で、世界遺産と美しい自然を守り、農村風景や地元農産物を活用した交流活動や歴史・文化の伝承活動を通じた魅力的な取組を実践。

○　和歌山県の「企業のふるさと」制度を活用し、平成21年から伊藤忠商事（株）と協定を調印。ブランド米である「天野米」の田植え、稲刈り等の米づくり体験や農村景観の保全活動等の交流活動に取り組む。伊藤忠商事（株）との交流をきっかけに、（株）クボタ、ヤンマー（株）等、企業との連携・交流が拡大。

○　休耕地を活用してそばを栽培し、収穫、そば打ち体験などの交流活動に取り組み、耕作放棄地の発生を未然に防止。連携する農機具メーカーから機械の提供により、そばの作付面積が拡大。

○　総務省の事業を活用し、竹パウダーを製造する機械を導入。伐採した竹を粉砕し、製造した竹パウダーを活用したぬか床や土壌改良資材として商品を開発し、地元直売所やサービスエリアの売店で販売するなど、放置竹林の竹を有効活用する取組に挑戦。

○　過疎対策として、移住希望者の田舎暮らしのサポートを行い、都会から定住受入を実現。かつらぎ町が移住希望者の受入窓口となり、「天野の里づくりの会」がサポートを実施した結果、天野の美しい自然に魅せられ、移住世帯は全世帯の約3割を占める。

## 取り組みに至った経緯

○　平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたことをきっかけに、天野の自然や歴史・文化を生かした魅力的で将来を見据えた「天野の里」を作るため、平成18年12月に「天野の里づくりの会」を発足。



天野の里物産販売所　「ようよって」
米、トマト、きゅうりなど地元の生産物を販売（営業は土・日・祝日のみ）

## 取組の成果（受賞等）

○　平成23年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」農林水産大臣賞
○　令和元年度「過疎地域自立活性化優良事例表彰」総務大臣賞

## 今後の展望

○　企業との異業種交流により、住民意識が変革し、天野の良さを再認識するとともに、自分たちが住んでいる天野の里に自信と誇りを持つことができ、この自信と誇りを原動力として天野の里の活性化に繋げていきたい。

# 滋賀県甲賀市

## うしかい・甲南・信楽「ふるさと支え合い」プロジェクトチーム

農業との多様な関わり



産学連携が切り拓く地域の新たな道

## 取組内容

○令和3年にうしかい田んぼアートのデザイン・人材不足の課題をきっかけに、「しがのふるさと支え合いプロジェクト」により信楽高校・甲南高校・地域団体（農事組合法人うしかい）の連携が始まった。信楽高校は田んぼアートのデザイン制作、甲南高校は田植え前の作業支援やイベント運営などを担い、両校で地域活動を支えている。さらに三者連携により、卵・アイガモ米・信楽焼茶碗を組み合わせた「卵かけご飯セット」を開発し、土山SAで販売し大きな反響を得たことを契機に、土山SAや地元企業とも連携した新商品開発へと発展。令和7年度は信楽焼の皿を用いた「秋の甲賀セット」など新たな商品展開を行った。
○高校教育と地域資源を結びつけた地域活性化の取組として広がりを見せている。



信楽高校の茶碗・うしかいのお米
甲南高校の卵が入った「卵かけご飯セット」

## 取組に至った経緯

○信楽高原鐵道の橋が洪水で流された災害を契機に、地域の足である鉄道への恩返しとして農事組合法人うしかいが「うしかい田んぼアート」を開始した。運営上の人材確保やデザインの洗練などの課題を踏まえ、県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を通じて信楽高校と甲南高校が連携。それぞれの専門性を活かした支援が始まり、地域活性化へと広がっていった。

## 取組の成果（受賞等）

○令和7年度　近畿農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第9回）コミュニティ・地産地消部門に選定。

## 今後の展望

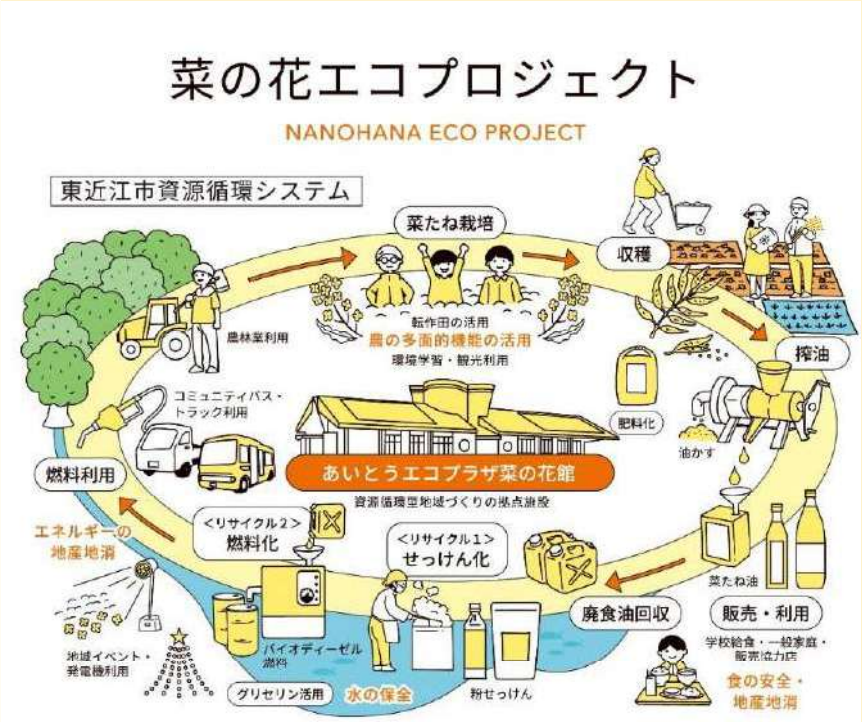
○これまで築いてきた地域・学校・企業のつながりを活かし、さらに新たな形での地域連携を模索していく。
○甲南高校では菓子製造業等の許可を活かし、自校やうしかい・甲賀の原材料を使って、信楽高校制作の信楽焼の器に合う焼菓子などを製造・販売することも視野に入れている。
○今後は甲賀地域の企業との連携なども深めながら、高校生と地域が協働する取組として発展させていきたい。

# 滋賀県東近江市

NPO法人
愛のまちエコ倶楽部

## 食とエネルギーの地産地消を目指して

農業との多様な関わり





もみ殻くん炭で脱炭素に貢献


「菜の花館」での環境学習


圧搾一番搾り菜たね油「菜ばかり」


バイオディーゼル燃料で走るトラクター


市民による廃食油回収の様子


菜種栽培農家さん

## 取組内容

○『菜の花エコプロジェクト』
　転作田を有効活用して栽培した菜種から、食用菜種油「菜ばかり」を東近江市の特産品として製造。搾りかすも肥料として、お茶栽培を始めとした地域農業に活用している。
　また、市内の回収した廃食油を再利用し、せっけんの製造や、バイオディーゼル燃料に精製して地域エネルギーとして活用するなど、1998年に資源循環システムを確立している。
○未利用バイオマスの活用
　市内の稲作によって出るもみ殻をくん炭に炭化し、土壌改良資材として農業に活用しており、炭素貯留効果で、2022年からJ-クレジット申請している。
○農村活性化
　新規就農支援（果樹園継承・集落営農担い手支援）、農業体験企画、農家民泊推進活動等に取り組んでいる。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」受賞の様子

## 取組に至った経緯

○昭和50年代の琵琶湖の富栄養化に端を発した『せっけん運動』（リンを含む合成洗剤の使用をやめて粉石けんを使おうという運動）を契機に、東近江市愛東地区で地域資源循環システム『菜の花エコプロジェクト』を確立。
　プロジェクトの拠点である東近江市『あいとうエコプラザ菜の花館』の指定管理者として、循環の実践を担っており、行政・市民との協働を強みとしながら、NPOならではの展開の仕方で取組を広げてきた。

## 取組の成果（受賞等）

○地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰受賞（2017年）
○第11回毎日地球未来賞・大賞（2022年）
○第11回グッドライフアワード環境大臣賞最優秀賞（2023年）
○「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第12回選定）ビジネス・イノベーション部門受賞（2025年）

## 今後の展望

○もみ殻くん炭やバイオディーゼル燃料の農業利用を推進し、農業分野での$CO_2$削減に貢献していく。
○農業体験、農家民泊のコーディネート、移住・就農支援を通して、多くの方に農ある暮らしの選択肢を提供したい。

# 京都府京丹波町
## 株式会社農都

農業との多様な関わり




## 取組内容

○ 寒暖差の大きい京丹波町の特徴的な気候を活かし、伝統野菜と地域の特産品となり得る野菜を生産。
○ 通常の3倍ほどの粒の大きなラディッシュ（京丹波ラディッシュ）や、朝、夕の寒暖差を利用し、たっぷりとした甘みを蓄えた黒枝豆（京丹波黒枝豆）、糖度16度以上の甘味が特徴の赤いスイートコーン（京丹波レッドコーン）などを生産。
○ フレックスタイム制を導入し、子育て中の女性や農業以外の仕事をもつ方も働きやすい環境を整備。
○ 従業員のキャリア、得意分野を見極めて仕事を割当て、モチベーションを高く保つことができる環境づくりをする一方、作業面では「いつでも、どこでも、簡単にできる」を基準に各作業を標準化し、脱俗人化を進める。

## 取組に至った経緯

○ 大学卒業後、東京の食品卸商社に就職。「地元の京丹波を盛り上げたい」との思いでUターンし、京都で野菜の流通業に従事した後、祖父の農業を受け継ぎ令和3年に独立。令和7年に株式会社農都として法人化。



京丹波ラディッシュ

## 取組の成果（受賞等）

○ 第62回全国青年農業者会議意見発表部門：全国農業青年クラブ連絡協議会会長賞受賞
○ 京都府環境負荷低減事業活動実施計画の認定（京都府みどり認定）取得
○ ソーシャル企業認定制度S認証取得

## 今後の展望

○ 農業をキャリア選択肢のひとつにする。
○ 京丹波町から世界が魅了するブランドをつくる。


京丹波レッドコーン


京丹波黒枝豆

# 大阪府堺市美原区

## 美原区古代米プロジェクト

農業との多様な関わり

農業でつながる美原区を目指して



史跡黒姫山古墳と古代米の田んぼ

## 取組内容

○「美原区古代米プロジェクト」（以下「古代米プロジェクト」という。）は、市民、民間事業者、区役所が一体となり、緑豊かな農地と歴史資源を生かし、古代米を核に、地域をつなぐ取組で、農業人口の増加や耕作放棄の予防を図り、持続可能で魅力ある美原区の実現を目指している。

○ 令和7年度、近畿農政局ディスカバー農山漁村の宝（第9回）に選定された「美原の古代米プロダクツ」（以下「プロダクツ」という。）は、古代米生産者として、こども達を対象にした田植えや稲刈りの体験イベント、小学校での古代米づくりの出前授業、将来の古代米の担い手を育成するための「みはら農業塾」の講師も担当し、古代米プロジェクトの中心部門となっている。また、古代米の選別やパック詰めなどの作業は障がい者が担っており、社会参画と農業を繋ぐ農福連携の役割も果たしている。

○ 地域のカフェをはじめ、大手企業など多くの民間事業者が、美原区の特産品として古代米の販売や商品開発に協力している。

## 取組に至った経緯

○ 美原区は、古くから交通の要衝で立地ポテンシャルの高い地域であるため、計画的で良好な土地利用の誘導と農地の保全を合わせて行う必要があり、農地を保全するため、市民の提案により、生産者、民間事業者、行政が連携して古代米を活用した取り組みを始めた。



選定証授与式の様子

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ プロダクツの活躍のおかげで、現在、古代米の需要が生産量を上回っているため、生産量の増加が課題となっている。古代米の担い手確保のために行政と協力して始めた「みはら農業塾」の卒業生が、古代米生産をはじめるなど、作付面積は確実に増えてきている。

## 今後の展望

○ 古代米によって地域の方々をつなぐ活動が実を結び、民間事業者や障がい者作業所、大阪府立農芸高等学校など、まちづくりの輪が着実に広がってきている。そして、区民の誇りでもある黒姫山古墳のふもとでは、今も古代米が美しい稲穂を実らせ、美原の原風景と呼べる姿を留めており、今後も地域が農業でつながる取組にチャレンジしていきたい。



田植え・稲刈り体験イベント



古代米関連商品

# 兵庫県加古川市

## 一般社団法人 ため池みらい研究所

農業との多様な関わり

# 公民学連携による草刈り問題の解決



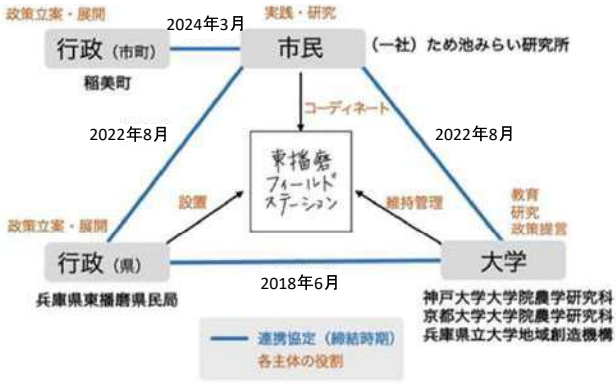
草刈り作業の楽しさの普及を目的として開催した「草刈りフェス」

## 取組内容

○5つの活動グループ（ロボット駆使、都市住民・大学生、集落住民、若手農家、研究者・大学生それぞれの主体による草刈りを通じた健康づくりグループ）で、集落及び広域で行う草刈り作業の体制を組み、草刈りを実施。
○草刈りができる人材の育成及び草刈りの楽しさの普及を目的として「草刈りフェス」を開催。
○都市住民・大学生を主体としたグループと地域が連携して地域イベント（夏祭り）を実施。

## 取組に至った経緯

○ため池みらい研究所は、大学、市民、企業、行政が参画する公民学連携の仕組みを通じて、ため池を含む農村資源の持続的な管理・活用に取り組む市民研究所で、その活動の拠点を、地域の交流・研究拠点である「東播磨フィールドステーション」内に設置。




公民学連携の構造（2025年8月時点）

## 取組の成果（受賞等）

○「草刈りフェス」には、地域内外から多くの来場者があり、関係人口創出にもつながっている。参加者は草刈りだけでなく，地域の夏祭りの運営や農作業にも継続的に参加し、持続的な関係構築に寄与。
○令和7年度第9回近畿農政局ディスカバー農山漁村の宝アワード優良事例に選定。
○農村計画学会2022年秋季大会において優秀発表賞を受賞。

## 今後の展望

○公民学連携により得られた調査・研究結果を各主体と共有することで地域に貢献し、草刈り問題の解決に向けた政策提言と伴走支援に取り組む。
○市町行政との連携協定締結数を増やし，ローカルシンクタンクとして行政との協働プロジェクトを立案・実施。

# 兵庫県多可町

## 株式会社多可町地域商社RAKU

ビジネス・
イノベーション




多可町に賑わいを取り戻せ！

## 取組内容

（Kaji家は空き家利活用の宿泊・飲食施設・チャレンジショップで移住希望者の滞在拠点となっている。）

多可町地域商社RAKUでは、地域特産品の販路拡大のため、ふるさと納税の運営や、特産品である杉原紙を活用した小物などの商品開発、異業種との連携マルシェなどを開催している。また、空き家をリノベーションした交流の場の整備、「働く」、「住む」ことを体験できるツアーやインターンなどを通して地域への移住・就農希望者に繋げ、地域雇用と定住推進活動に取り組んでいる。

## 取組に至った経緯

地方が抱える少子高齢化、人口減少に直面し、消滅可能性都市896にも該当。一方で当町は「敬老の日」や「山田錦」「杉原紙」の発祥の地であり、ラベンダーや播州百日どりなど様々な特産品が数多くある町でもあった。このような地域において、町外から集まった若者が中心となり、魅力的な多可町の農産物や特産品などの販路開拓により、生産者の所得向上、地域への再投資や新たな特産品の開発促進を図ることで多可町の知名度の向上に寄与することになると考えた。



（手漉き和紙杉原紙を活用した商品開発）

## 取組の成果（受賞等）

これらの取組みが評価され「令和6年度近畿ディスカバー農山漁村の宝」優良事例に選定。

## 今後の展望

地域の魅力や施策・情報を町内だけでなく町外にも広く発信し、多可町を知ってもらうためのタウンプロモーション活動による「観光事業」や、農薬不使用の農産品の買取販売により、高付加価値の産品づくりを行う生産者を増加させる「農業振興」にも注力していきたい。

# 兵庫県洲本市

（アワジミロクファーム）
Awaji369Farm 代表：安達 大樹

農業との多様な関わり



## 未来へ紡ぐ淡路島の自然栽培

## 取組内容

〇Awaji369Farmを立上げ、地域と積極的に連携、耕作放棄地等の課題に取り組む。
〇地域の風土に適した在来種を用いた農業を実践し、野菜本来の味わい、種の継承に努める。
〇都市部からの訪問者に対して、収穫体験や本格的な農業体験も提供し、農の現実を体感し地域との深い関わりを築くことを重視。
〇中核となる自社農園を拠点に、地域住民・事業者らで構成する「心に残る淡路島農泊推進協議会」と連携し、移住者や関係人口の拡大を目指した多彩な活動を展開。また自らも、農泊施設を設立。

## 取組に至った経緯

〇都心での暮らしを見直す中で、淡路島の豊かな自然と人々の営みに触れたことをきっかけに家族とともに移住を決意。特に、國生み神話の舞台である伊弉諾神宮に象徴される神事や、地域の気候や風土に根差した在来種野菜の継承、農薬や肥料に頼らない自然栽培といった「目に見えない価値」を未来へと紡ぐ必要性を強く感じた。



農泊施設

## 取組の成果（受賞等）

〇2024 年「ひょうご産業SDGs 推進宣言企業」登録。
〇農業共済新聞（2023 年09 月4 週号、2024 年8 月4 週号）記事掲載。
〇近畿農政局 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第9回）選定。



地域住民と再生した東屋

## 今後の展望

〇ラウベ（小屋）で宿泊できる滞在型市民農園「クラインガルテン」を設立し、週末や長期休暇に農作業や自然を楽しめる場を提供し、都市住民と地域住民の交流を促進していきたい。

# 奈良県奈良市
## 田原アグリサポート協議会



農業との多様な関わり

キウイフルーツで関係人口創出

## 取組内容

○　令和4年度から農業所得の向上と耕作放棄地の解消を目標に、耕作放棄地で鳥獣被害の少ないとされるキウイフルーツの試験栽培を始め、現在は90アールまで拡大している。
○　キウイフルーツの本格栽培に当たっては、苗木の植え付けイベントを開催し、田原地区に関心を持ってもらうことを目的に、地域外の人たちへも参加を呼び掛けた。

## 取組に至った経緯

○　奈良市中心部に近く、住民の多くが兼業農家や非農家である奈良市田原地区では、人口減少や少子高齢化の影響で、耕作放棄地の増加が大きな問題となっており、生産者や地域住民に加えて、新規就農者などの参加を得て、農業振興を図る必要があったことから、田原アグリサポート協議会を設立した。



令和7年度に初収穫を迎えたキウイフルーツ

## 取組の成果

○　これまで実施した植え付けのイベントでは延べ230名の参加があった。

## 今後の展望

○　更なるキウイフルーツの拡大を図るため、同地区内で水稲や野菜等の栽培に取り組みたい方を対象とした「たわら農業塾」の中に、令和7年度からキウイフルーツコースを開設。
○　令和7年度は4組5名の受講者がキウイフルーツ栽培を始めており、今後は同地区におけるキウイフルーツでの新規就農者の獲得や、キウイフルーツが新たな特産品になることが期待される。
○　令和7年度に初収穫を迎えたキウイフルーツは、今後、現在同地区で活動している地域おこし協力隊や農業塾生の協力も得ながら、増収を目指す。



「たわら農業塾」で学ぶ受講者

# 奈良県奈良市

## 畑ヘルパー倶楽部®

農業との多様な関わり




## 取組内容

○「畑ヘルパー倶楽部」は、人手不足に悩む農家と農作業を手伝いたい人（畑ヘルパー®）をつなぐ仕組みづくりとその運営等を行っており、畑ヘルパーの登録者は197名、受入農家は11戸。（令和8年5月現在）

○　農作業の手伝いのお礼として新鮮な農産物を受け取る「畑ヘルパー」、人手不足の解消とともに金銭的負担の軽減につながる「受入農家」、農家から斡旋料として提供された農産物をマルシェで販売し、運営経費を賄う「畑ヘルパー倶楽部」の三者がそれぞれの利点を享受する、“三方良し”の持続可能なソーシャルビジネスを展開している。

## 取組に至った経緯

○　農家の現状を知り、農家を元気にしたいという思いから、平成28年に、農作業を手伝うボランティアグループ「畑ヘルパー倶楽部」を設立。



籾蒔き作業

## 取組の成果

○　取組当初は農作業の手伝いが中心であったが、活動を重ねる中で、餅つきなど農村の暮らしを体験する機会も増え、その結果、畑ヘルパーだけでなく受入農家も活気づき、相互の交流も一層深まった。

○　近年は、料理教室や婚活イベント、交流会の開催、食育活動などにも取り組み、令和7年には古民家を改修し、農村に滞在して畑ヘルパー活動や里山体験ができる農泊施設「Light House TAWARA」をオープンし、地域の活性化に繋げている。



餅つき体験

## 今後の展望

○　畑ヘルパー倶楽部の活動による農家の人手不足の解消と、農作業や農村での体験が心身のリフレッシュとストレス軽減などの効果もあったことから、引き続き、「農泊」として体験プログラムの充実と受入農家との連携で、都会の人を呼び込み、里山の良さを更に広げていくこととしている。

# 奈良県天理市
## 大和高原「福住村」プロジェクト




農業との多様な関わり

官民連携の取組により、持続可能な循環型の里山暮らしの実現を目指す

## 取組内容

○ 「天理市オーガニックビレッジ宣言」に基づく高原地域を中心とした有機農業の推進を核として、官民連携により持続可能な循環型の里山暮らしの実現を目指している。

○ かつてお茶の産地であった福住地域に残る耕作放棄茶畑を、農薬・化学肥料のぬけた地域資源と再評価し、木も葉も原料として使用する「里山三年晩茶」を生産。

○ 付加価値の高い商品作物づくりを目指し、さつまいもや大和ルージュ（赤いスイートコーン）等を有機栽培している。

○ 福住小中学校の授業では、有機の米づくりや里山三年晩茶のパッケージづくりをするなど、子どもたちも「福住村」プロジェクトと連動した活動を実施し、地域づくりに参加している。



耕作放棄茶畑の再生

## 取組に至った経緯

○ 天理市の高原地域では、市街地と比べ人口減少や少子高齢化が進んでおり、農業の後継者不足による耕作放棄地の拡大や、空き家の増加などの課題が顕在化しており、その解決に向け、環境保全や教育、移住・定住促進など多様な分野において、持続可能な循環型の里山暮らしの実現を目指す「福住村」プロジェクトを開始。

## 今後の展望

○ 2025年4月28日に設立した農村型RMO「福の住む里協議会」を中心に、官民の様々なステークホルダーが連携し、持続可能な循環型の里山暮らしの実現に向けた取組を継続的に発展させていきたい。

# 奈良県生駒市

## 生駒市地域活力創生部農林課



## 農業との多様な関わり

### 市直営の事業を通して多様な農の担い手を育成

## 取組内容

○　令和4年度から、仕事をしながら自給的農業（いわゆる半農半X）や、農業に本格的に取り組みたい人などに対して1期半年間の講座「いこまファーマーズスクール」を開講している。
○　毎期、募集定員を大幅に上回る応募があり、これまでの受講生は延べ100組を超え、うち数名は市内で新規就農者として就農したり、就農を目指して市内の農家で研修を受けている。
○　新規就農者へは、人通りの多い近鉄生駒駅で定期的に開催している「いこまニューファーマーズマルシェ」への参加を呼び掛けることで、販路確保のサポートとなっており、また地産地消の推進に繋げている。
○　市内の飲食店が市内の農業者から提供された野菜を使い、特別な生駒産野菜のメニューを開発し、市民の試食モニターが料理を楽しみ、感想をSNSで発信する取組である「いこまレストラン」で市民への生駒産野菜の浸透を図っている。

## 取組に至った経緯

○　生駒市は、隣接する大阪府の中心部へのアクセスの良さから住宅都市として発展し、人口が増加した一方で、農業者の減少や高齢化が進み、遊休農地の増加と担い手の確保が喫緊の課題となっていた。



いこまニューファーマーズマルシェの様子

## 今後の展望

○　「いこまファーマーズスクール」を通じて、地域農業を支える担い手である新規就農者のさらなる確保と支援を進めていきたい。
○　生産者と消費者、飲食店を結び付ける取組である「いこまニューファーマーズマルシェ」及び「いこまレストラン」を継続し、「農」のある暮らしを身近にすることで農業への多様な関わり方を促進する。



いこまレストランの様子

# 奈良県宇陀市
## 有限会社類農園

農業との多様な関わり




農を起点とした地域の担い手づくりを目指す

## 取組内容

○　株式会社類設計室の農園事業部である有限会社類農園は、宇陀の地で多品目の有機野菜の栽培を開始。
○　2014年に農産物直売所を開設するとともに、奈良・三重・和歌山の10か所の農産物集荷場と大阪の直売所を結ぶ物流網を構築。現在では、奈良県内外約600人の生産者が出荷している。
○　この物流網を拡大し、地域で生産された農産物を都市圏の多様な販売店へ届ける地域の流通網へと発展させている。
○　生産拠点を生産・流通・滞在の機能を備えた農と学びの共創拠点「VUTAI」として活用。関係人口の創出や次世代の担い手の育成を目指し、生産現場でしか触れることのできない農業・食のリアルを体験できる宿泊プログラムを実施している。


農業体験の様子

## 取組に至った経緯

○　有限会社類農園は、社会情勢が不安定だった1999年に株式会社類設計室の農業事業として設立。以来、生産と販売が一体となった事業を展開してきた。設立25年を節目に、深刻化する人口減、農の担い手不足等、地方と農業が抱える社会課題に対し、正面から向き合おうと「21世紀型の就農定着と担い手づくり」を目指して「VUTAI」を令和8年4月にグランドオープン。



大阪府内の直売所

## 今後の展望

○　宇陀を舞台に農業・教育・健康を結びつけ、多様な人々と企業が協働する場として「VUTAI」を活用し、公民連携のもと、子どもから大人までが学び・挑戦できるフィールドを整え、地域の担い手の育成とともに、新たな産業の創出を目指す。さらに、多様な人々と新たな可能性が集い、次の未来をともに描いていく拠点づくりを目指す。

# 奈良県山添村

## YAMAZOE オーガニック講座

農業との多様な関わり




大和高原全体でオーガニックの未来を描く

## 取組内容

○　持続可能な農のあり方を広げ、近隣地域と力を合わせて、大和高原全体でオーガニックの未来を描くことを目的とした山添村主体の「オーガニック講座」（受講生:20名）を開講している。
○　講座は山添村内外の者を対象に、村内で有機農業への就農目指す方だけでなく、有機農業を始めたい方や有機農業に興味がある方など、幅広い方に参加していただけるよう初級・中級・上級コースを設け、有機農業を目指す方が将来にわたり安定して営農を継続し、さらに発展していくことを目的に支援をしている。
○　また、本講座では、農業科がある奈良県立山辺高校山添分校の生徒と共に学ぶ時間を設けており、世代を超えて交流でき、それぞれの気づきや多様な視点を分かち合うことも講座の魅力となっている。

## 取組に至った経緯

○　山添村は奈良県北東部の大和高原地域に位置し、起伏に富んだゆるやかな傾斜地を活かし、大和茶や米の栽培を中心とした農業を主産業として発展してきたが、近年では少子高齢化や若者の村外への流出に伴う後継者不足に加え、獣害の増加や化学肥料などの資材価格の高騰などが収益を圧迫し、離農者が増加してきた。
○　全国的にSDGsの推進や環境に配慮した有機農業への関心が高まる中、今後も地域で農業を続けていくための仕組みづくりを進めることを目的に、令和7年3月に「山添村オーガニックビレッジ」を宣言した。



オーガニック講座（秋野菜の作付け）

## 今後の展望

○　今後は、本講座をさらに発展させ、参加者それぞれに農地を貸与することで、より実践的に有機農業に携わってもらい、山添村の農業人口の創出につなげていきたいと考えている一方で、これまでと同様に有機農業に初めて携わる方も大歓迎していきたい。
○　まずは、小さな一歩から始められる方法を案内し、「やってみる」という気持ちをみんなで育みながら、山添村の豊かな自然の中で、持続可能な暮らしと農業の可能性を一緒に探求していくこととしている。

# 奈良県大淀町
## 特定非営利活動法人 おおいわ結の里

農業との多様な関わり

地域外の力を借りて存続するコミュニティー



## 取組内容

○　特定非営利活動法人おおいわ結の里(令和3年設立)は、大岩地区の全住民が参加するとともに、地域外で暮らす家族や親戚をはじめ、都市住民も参加して活動を展開。里山の魅力を体験できる場として、①地域の歴史や文化の継承活動、②地域の魅力体験、③大岩農産物直売所の運営、④地域の健康支援、⑤持続可能な地域のコミュニティづくり、⑥古民家「おおいわ結の里」を拠点とした活動、⑦里山と人をつなぐ、7つの事業に取り組んでおり、地域内外の人々との交流を深めながら、地域文化を次世代へと継承している。

○　大淀町役場と連携し「大淀町農村の魅力づくりモデル事業」の一環として農業塾を開催している。




近畿農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定証授与式の様子

## 取組に至った経緯

○　山あいにある大岩地区は、地域の担い手不足が深刻な状況になっており、里山の魅力を次世代へ継承するため、地域外の人を受け入れる「新たな仕組みづくり」として法人を設立した。

## 取組の成果(受賞等)

○　令和7年度:近畿農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第9回)に選定

## 今後の展望

○　法人の設立後、地域外の人にも大岩地区の取組を知ってもらうことができ、同法人で活動する正会員数は94名(令和7年12月現在)となり、地域内に住んでいる人口を上回った。このような取組は、人口が減少していく全国の中山間地域にとっても必要であると考えており、当法人の活動を多くの人に幅広く伝えていきたい。

# 奈良県下市町
## 平原区自治会むらづくり委員会

農業との多様な関わり



レモングラスでつなぐ、むらの未来

## 取組内容

○　奈良県下市町平原地区では、人口減少や高齢化が進む中、地域活性化を目的として平成26年に「平原区自治会むらづくり委員会」を設立。
○　レモングラスは、ハーブティーをはじめ、石鹸や飴、蒸留水などに加工し、直売所や量販店、ECサイトでの販売や、ふるさと納税の返礼品など、6次産業化に取り組んでいる。
○　農作業及び加工作業は地域住民が分担して行っており、若者から高齢者まで無理なく参加できる体制を整えている。

## 取組に至った経緯

○　平原地区では、高齢化や耕作放棄地の増加が課題となっており、こうした状況に対応するため、地域のみんなで知恵を出しあい、薬草栽培が盛んだった地域の歴史を活かして、レモングラス栽培を開始。

## 取組の成果（受賞等）

○ 平成27年度：第8回 ゆめづくり まちづくり賞 受賞
○ 令和元年度：手づくり郷土賞（一般部門）受賞
○ 令和６年度：にっぽんの宝物 JAPANグランプリ2023-2024
　　ドリンク部門 準グランプリ受賞「香り漂うレモングラスティー」



レモングラスを加工した商品

## 今後の展望

○　今後も、レモングラス加工品の品質向上と安定供給に取り組むとともに、地元の住民が中心に開店した「ピザハウス」を核とした交流の場づくりを進め、地域内外の人々との関係を広げていく。特に、大学生など若い世代との連携を深めることで、活動の継続性を高め、次世代へとつながるむらづくりを目指していく。

# 奈良県河合町建設課

## たんぼの楽耕（がっこう）

農業との多様な関わり



農業体験による人の交流と荒廃農地の解消

### 取組内容

○　河合町では、町内外から参加者を募って農業委員や地元農家等の指導のもと、農業体験ができる取組「たんぼの楽耕」を実施している。
○　たんぼの楽耕への参加初年度は、「一般体験コース」に参加し、米、玉ねぎ、黒枝豆等10種類を超える作物の種まきや植え付け、収穫作業を月に2、3回体験する。
○　2年目以降は、割当てられた耕作地で、自分で選択した作物を栽培する「独立畑コース」と、農業委員等の指導の下、黒枝豆と水稲の苗づくりから脱穀までの一連の作業を体験する「本格的な米コース」も選択することができる。
○　例年、参加者は40～50名となっている。

### 取組に至った経緯

○　河合町は、増え続けている荒廃農地を有効活用するため、平成27年から「たんぼの楽耕」を始めた。



収穫した農作物

### 取組の成果

○　これまでのたんぼの楽耕の活動により、約62アールの荒廃農地を解消するとともに、参加者2人が新規就農し、約43アールの農地の貸付けを行った。

### 今後の展望

○ たんぼの楽耕は、家族で参加し、子どもたちも一緒に農業の楽しさを体験できるとともに、女性や定年退職された方、他の仕事に従事している方など、就農に前向きな方々を支援し、農業の後継者不足の解消に少しでも寄与したいとの思いで取り組んでいる。
○　町外在住者の参加を増やし、相互の交流を深めるとともに、河合町の魅力を実感していただくことで、町外からの移住につながることを期待している。

# 奈良県　橿原市

## 十市町地域保全向上活動組織

農業との多様な関わり




## 取組内容

○　五穀豊穣を祈念し、農と深いつながりのある伝統行事である十市御縣座神社（とおちのみあがたにますじんじゃ）の秋祭り（7台のだんじりが町内を曳行する）やその他イベントには、地元企業の従業員が参加するなど、地域企業と連携した農村づくりを行っている。
○　田植えや稲刈り体験等を通じて、日本の伝統食である米や餅を作る、食と農の交流イベントを実施している。
○　地区内の稲作農家37戸で集落営農組織を設立。21haの農地の農作業を受託するとともに、自治会が中心となって農地中間管理機構を通じて、担い手に農地を集約している。

## 取組に至った経緯

○　企業誘致による市街化が進む中、稲作農業あっての祭りであることを再認識し、多面的機能支払交付金による活動を始めるにあたり、自治会を中心に老人会、壮年会、子ども会等が参加した十市町地域保全向上活動組織を設立し、営農に必要な共同活動と地区内外の子ども達に農村文化の継承を行う活動を展開している。



「ディスカバー農村漁村の宝」交流会にて

## 取組の成果（受賞等）

○　令和3年度：奈良県自治連合会自治功績者表彰
○　令和6年度：奈良県農村振興優良組織表彰
○　令和7年度：「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第12回）優良事例に選定

## 今後の展望

○　集落営農組織の法人化を進めるとともに、担い手との連携を強化し、地域農業を活性化させたい。また、地域の農村文化の継承や地域活動の継続に向け、新たな住民にも地域づくりに主導的な役割を担ってもらえる仕組みを整備するとともに、伝統行事を中心に、次世代を担う子ども達にも地域文化の継承と、食と農を通じた教育を広めていきたい。

# 奈良県明日香村

## 特定非営利活動法人明日香の未来を創る会

農業との多様な関わり



棚田オーナー制度で美しい「稲渕の棚田」を未来につなぐ

## 取組内容

○　棚田オーナー制度では、日本の棚田百選にも選ばれた「稲渕の棚田」で、四季折々の自然に触れながら米づくり や野菜づくりを体験。

○　オーナーは、地元インストラクターによる指導のもと、苗代づくりから収穫までを体験するコースや、里山の景観保全を寄付金で支援し、稲刈り等にも参加できるコース、自分の区画で好みの野菜や花を栽培するコースを選択し、棚田を守る活動に参加している。

## 取組に至った経緯

○　時代とともに農業の担い手が減少し、荒廃農地の拡大が地域の大きな課題になっており、棚田の保全を目的として、1995年に地元住民が「棚田ルネッサンス実行委員会」を設立し、同年から棚田オーナー制度の導入により、都市部から人を呼び込み、 地元住民と協働で棚田を守る活動を開始した。

○　2010年には、活動のさらなる発展を目指して法人化し、30年目を迎えた現在においても、県内外から多くのオーナーが訪れ、都市と農村の交流が継続している。



棚田のシンボル「ジャンボ案山子」

## 取組の成果（受賞等）

○　2006年：第3回石井進記念棚田学会賞 受賞

○　2017年：第37回緑の都市賞 ・緑の市民協働部門　国土交通大臣賞 受賞

○　2023年：第19回オーライ！ニッポン大賞　審査委員会長賞 受賞

## 今後の展望

○　棚田オーナー制度を取組の核としつつ、テクノロジーの発展や自然環境の変化に 対応しながら、今後も事業を継続する。

○　近年、シカやイノシシによる被害が拡大し、事業を継続していくためには獣害対策への取組が不可欠となっており、オーナーとの協働により、必要な対策を着実に進めていく。



獣害対策の様子

# 奈良県葛城市
## 葛城山麓地域協議会



農業との多様な関わり

地域資源を活かして笑顔の循環

## 取組内容

○　葛城山の東麓に位置する7つの集落で構成する「葛城山麓地域協議会」は、各集落の良いところを互いに伸ばし合い、「あってよかった協議会」を実感できる「つながり方の実践」として、平成26年から山麓の集落をめぐるウォーキングイベント「葛城山麓ウォーク」を開催するとともに、地域資源を活かして新しい特産づくりにも取り組んでいる。

## 取組に至った経緯

○　地域の賑わいづくりはもとより、荒れていく農地を守りたいという思いから、農地の維持保全活用を中心とした地域づくりを目的に平成21年に結成。



葛城山麓ウォーク（収獲体験）

## 取組の成果

○　毎年、11月23日に開催される「葛城山麓ウォーク」は、協議会のメンバーだけでなく、観光ボランティアガイド、就労支援施設、NPO法人、地元店舗など各種関係団体とも連携して取組んでおり、県内外から約800人が参加する交流の場となっている。

○ 令和2年度近畿農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第4回）に選定。



援農隊のみなさん

## 今後の展望

○　農作業やイベントなどを応援する「援農隊」など、将来に向けて地域の取組に共感する「人」が集まる仕掛けづくりに取り組む。

○ 放置竹林等を活用したバイオ炭の販売、薬膳料理教室の開催、収益につながる新たな作物の栽培や地域内外の人々の交流を更に進め、将来ビジョンである「葛城山麓地域の資源で笑顔の循環」の実現を目指す。

# 和歌山県田辺市
## 秋津川振興会

農業との多様な関わり

「紀州備長炭」発祥の地で次世代につなぐむらづくり



紀州備長炭記念公園

## 取組内容

○ 紀州備長炭記念公園を中心に地域の特産品である梅や備長炭を活用した都市農村交流事業等に取り組み、地域活性化を推進。
○ 中山間地域等直接支払交付金の加算措置を活用した農作業委託、農機具のリース事業や、地域で生産される南高梅、さつまいも等、農産物の高付加価値化を図るための新たな商品開発に取り組む。
○ 春まつりや山まつりの開催、資源ごみ回収事業、シニアサポート事業（高齢者訪問）等の生活支援に取り組む。
○ 世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」PRのため、地元小・中学校等と連携し、備長炭の原料となるウバメガシを遊休農地に植樹する「ウバメガシの森づくり事業」を実施。
○ 令和6年度から、みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会の支援を受け、外国人を対象とした梅収穫ワーケーションモデル事業を実施。

## 取り組みに至った経緯

○ 平成9年に紀州備長炭記念公園が開園し、同年地域住民や各種団体の合意により秋津川振興会が発足。同振興会は、イベント部会、店舗運営部会、製炭者育成部会、商品開発部会、青空市運営部会等の部会組織を設置し、地域の関係者と幅広く連携し、むらづくりの活動に取り組む。
○ 令和元年7月に発生した県道29号線の斜面崩壊による通行止めや新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、紀州備長炭記念公園の利用者や公園内の店舗の売り上げが激減するなどの課題に直面。


秋津川産のさつまいも（紅はるか）を使用した「焼き芋ブリュレ」
お芋の自然な甘さが魅力で、備長炭コーヒーなどのドリンクセットがおすすめです

## 取組の成果（受賞等）

○ 平成24年度豊かなむらづくり全国表彰事業で近畿農政局長賞を受賞

## 今後の展望

○ 農作業の効率化に向け、防除用ドローンの活用や潅水作業等のスマート化を検討しており、まずは将来ビジョンの策定に向けて地域で検討を進め、さらなる地域の活性化につなげていきたい。

# 京都府舞鶴市

## 株式会社Muroji-farm

農業との多様な関わり












唯一無二
健康になれる癒しの農園

## 取組内容

〇2024年6月に地区の豊かな自然環境を活かし、40品種600本のブルーベリー狩りとハーブ園、健康志向の農園カフェを核とした体験型農園を開園し、2024年は1,400人、2025年は3,500人が来園。
〇併設の農園カフェでは、ブルーベリーやハーブの特性を生かし健康に配慮したメニューや商品開発及びビール醸造企業との協働によるクラフトビールを発売、またハーブの認知拡大のためハーブを活用するワークショップをはじめとして多様なワークショップや勉強会を開催。
〇農園は車いすやベビーカーでも入場できるバリアフリーの設置やハーブティを用いた健康相談など、福祉関係に配慮した活動をしている。



ハーブガーデン「ハーブのこみち」

## 取組に至った経緯

〇舞鶴市室牛（むろじ）地区は高齢化が進む限界集落の農村であり、農業はもとより地域の将来を危ぶみ、持続可能な地域とするため地域の魅力向上・発信・関係人口の増加を図りたい思いから取組を始めた。

## 取組の成果（受賞等）

〇第10期（2024年12月）起業の顔賞　（起業情報誌「起業時代」の表紙）
〇近畿農政局「ディスカバー農山漁村の宝」（第9回）ビジネス・イノベーション部門に選定

## 今後の展望

〇「ブルーベリー」や「農園」をブランド化し地域全体をブランディングすることで、豊かな農村や自然環境を守り、持続可能な地域づくりを進めるモデルケースとして取組を他地域へ波及させる。
〇小学生の研修受入れや健康志向のコンテンツを通じ、地域住民と観光客が集う新たな拠点を創出する。
〇雇用の創出・地域経済の活性化に貢献し、就農や田舎暮らし希望者など様々な度合いの地域参画者をつなぐ拠点として発展させつつ、地域全体で子供たちの希望につながる取組を継続していく。

京都府京都市・久御山町

## 株式会社しんやさい

農福連携

# 個性を活かし、みんなで作るユニバーサル農園




## 取組内容

○ 障がい者に配慮した職場環境の実現を目指し、令和4年4月に法人化。
○ 農福連携技術支援者(農業版ジョブコーチ) の資格を取得し、農福連携に取り組む。
○ 新鮮・安心にこだわり、九条ねぎ、聖護院大根、金時人参など、多品目の野菜を生産・販売。
○ 美術能力の高い障がいのある社員が、インパクトのあるデザインの商品POPや、農作業マニュアル等を作成。
○ 規格外野菜を有効活用することで、食品ロス削減に積極的に取り組む。



社員が手書きで作成した作業マニュアル

## 取組に至った経緯

○ 起業時に障がい者雇用の難しさを経験したことから、より相手の立場に立つことの重要性を認識し障がい者雇用に取り組む。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 障がいのある社員の提案で、作業指示を図で視覚化するなど、作業者(障がい者)にわかりやすく工夫して、働きやすい環境づくりに取り組む。

## 取組の成果(受賞等)

○ 障がいのある社員が企業在籍型職場適応援助者(企業在籍型ジョブコーチ)及び農福連携技術支援者の資格を取得し、支援する側として活躍。
○ ノウフク・アワード2023優秀賞受賞。

## 今後の展望

○ 実習生を積極的に受け入れるなど、障がい者が農業を学べる場の提供や農家とのマッチング、就労に繋げるサポートをより充実させたい。


毎週水曜日に旧銭湯「九条湯」にて規格外野菜を活用した「農家メシ」ランチを提供

# 京都府亀岡市

## NPO法人 障害・高齢者就労支援センターLINK'S（リンクス）

農福連携




## 取組内容

○ 平成26年にリンクスを立ち上げ、平成28年に就労継続支援A型事業所の認可を受けて障がい者雇用を開始。
○ ブルーベリー、万願寺とうがらし、加茂なすなどの京野菜、キクラゲ、シイタケの生産・販売のほか、亀岡市の有機米プロジェクトに参加し、無農薬・無化学肥料による米の生産を行う。
○ 菌床キクラゲ・菌床シイタケは有機JASの認証を受けており、SDGsに配慮した地域循環に取り組む。
○そのほかモロコの養殖や栗園経営にも取り組んでおり、それぞれの作業は障がい者の適性に応じ様々な作業ができるよう工夫。

## 取組に至った経緯

○ 障がい者が農作業に従事することで、適度な運動と達成感が得られ生活リズムの改善が進むことから農福連携に取り組む。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 高齢化する農家の野菜等の出荷を支援するため、集荷事業に取り組んでおり、その中心的な役割を果たしている。
○ 障がい者雇用の拡大を後押しする仕組みづくりが必要と考え、ソーシャルファーム事業を令和4年から開始。

## 取組の成果（受賞等）

○ 令和5年度　近畿農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回）コミュニティ・地産地消部門に選定

## 今後の展望

○ 障がい者ファーストの考えに立って、雇用就農を含めた農福連携の取組を深化し、ソーシャルファーム事業の拡大を図る。


有機JAS認証を受けた菌床シイタケ



イベント出店の様子

# 大阪府高槻市

## NPO法人たかつき

農福連携

園芸療法で、生きがいづくり



## 取組内容

○ 介護保険施設であるデイサービスセンターにおいて、施設に隣接する7aの農地に加えて、4.5aの遊休農地を借りて畑として活用し、認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくり、健康維持・増進に向けた園芸療法を実施。

○ 施設利用者の約9割強が「自分の畑 ※」を持っており、スタッフと相談しながら野菜等を育てている。
※「自分の畑」は、施設利用者が作業しやすい高さ（約60cm）に合わせて木枠で作られている。

○ 認知症を抱える施設利用者は、意欲低下が著しく、日常的にあまり動かないことが多いが、「自分の畑」を持ち野菜の手入れをすることで、収穫の時期には畑までの往復歩行が習慣化し、利用当初に比べて歩く距離が増え下肢筋力の低下予防につながっている。




石神洋一代表理事

## 取組の成果（受賞等）

○ デイサービス利用者の年間延べ人数は、2001年の2,400名から、2022年には5,580名へ増加。
○ 近隣の遊休農地を活用することで農地の維持に貢献。
○ ノウフク・アワード2023　チャレンジ賞

## 今後の展望

○ 高槻市と協力して、より良い取り組みを実施できたらよいと考えている。
○ 「地域の荒廃農地を使ってほしい」という相談もあり、介護事業を運営するとともに、地域の荒廃農地を活用することで地域貢献をしたい。
○ 介護保険施設の運営とともに、川で遊んだり畑で作物を育てたりするなどの親子で参加する子ども向けの自然体験活動を行っており、今後、自然体験の活動スペースを増やしたい。



自分の畑

農福連携

# 滋賀県多賀町
## 社会福祉法人杉の子会



## 障がいをもつ子供たちの受け皿に

## 取組内容

○ 無償で借りた耕作放棄地に、ビニールハウスを2棟設置し、当会職員の指導のもと年間作業として花の育苗に取り組んでいる。花苗は無人販売所や電話注文による販売に加え、高速道路のサービスエリア等の花壇整備にも活用している。
○ 滋賀県の事業である「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に取り組んでいる「多賀にんじんクラブ」と協定を締結し、除草・収穫などの共同作業を行い、そこで出荷できなかった規格外のにんじんを活用して、「杉の子ブランド」として乾燥にんじんに加工し販売している。
○ 地元・高取山に自生しているクロモジ（クスノキ科の香木）の抗菌作用を活用し、スプレーやディフューザーを作成し、販売している。

## 取組に至った経緯

○ 町内の養護学校を卒業した子供たちの受入先が必要と考え、平成15年に現在の法人を立ち上げ、就労継続支援B型事業所、生活介護、放課後デイサービス、グループホームの4事業を展開。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 事業所利用者の作業賃金が低いため、杉の子作業所としての自主事業を確立し、作業賃金の改善を目指す。

## 今後の展望

○ 空き家を利用しグループホームを立ち上げ、「障がい」を身近に感じてもらえる仕組みをつくり、地域住民との相互理解を深め、地域の中で誰もが安心・安全に暮らしていける環境を整えたい。



多賀にんじんのチップ

# 京都府京田辺市
## 三休合同会社

農福連携



農業を通じ、障がい者と地域のハブを目指して

## 取組内容

○ チャリティーアパレルブランド会社JAMMIN合同会社の農業部門を分社化し、障がい者が働く就労継続支援B型事業所で、京田辺市内外から障がい者を受け入れ、農福連携の取組を開始。
○ 約200aの畑を借り受け、万願寺とうがらし、京都田辺茄子、えびいもなど、需要者のニーズに対応して栽培品目を拡大。
○ 大学との連携により農業と食を子供たちに教える食育活動を行う。

## 取組に至った経緯

○ 障がい者を「メンバー」と呼び、支援される側でなく、農業における担い手不足の解消や耕作放棄地の解消等、主役として活躍できる力を発揮できるよう、その実現に向けた取組を進めている。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 農業経験がなかったため、農業者に栽培方法を教わり、それを障がい者と一緒に実践する形で農業経験を積んだ。
○ 地域や大学との連携により、イベント開催や出前授業を通じ、活動範囲を広げた。



地域イベントの企画やハーブビールの企業コラボ等、様々な活動を実践

## 取組の成果（受賞等）

○ 京田辺市における地域貢献企業2024を受賞。
○ 市民交流や障がい者の社会的自立を支援する場として設置された「京田辺クロスパーク」の指定管理者と就労支援事業者の橋渡し役である「一般社団法人京田辺みんなの働くプロジェクト」運営に参画。



## 今後の展望

○ イベント等を通じた地域連携強化と加工品等の販路拡大を目指す。
○ 障がい者が一般就労に挑戦できる環境整備を行う。

# 大阪府枚方市

## 社会医療法人みどり会　さんさんグリーン

農福連携

社会の一員として、地域で必要とされる存在に！




## 取組内容

○ 隣接する京田辺市の荒廃農地を活用し、京野菜や茶の生産・加工・コミュニティカフェ運営を展開。
○ ろう者を中心とした利用者の高工賃を実現するとともに、コミュニティカフェで毎日ワンコインランチを提供し、地域の高齢者などの居場所を提供。
○ ５月の茶摘み体験をはじめ、えびいも、茄子の収穫体験、土曜市、呈茶など、通年で市民との交流イベントを実施。
○ 低農薬・ノンワックスのレモンや無農薬の柚子を栽培し、ノウフクJAS認証を取得。
○ 地元の特別支援学校や大学など、教育機関とも連携し農業体験等を通じた食育プロジェクトも展開。



茶摘みの様子

## 取組に至った経緯

○ 障害者であっても、安い賃金で一部の作業を請け負うのではなく、前面に立って活躍できる農福連携がしたいとの思いから活動を始める。
○ 高齢化のため廃園となった茶園を継承し茶栽培を開始した。



多くのお客さんでにぎわうコミュニティカフェ

## 取組の成果（受賞等）

○ ノウフク・アワード2025 優秀賞

## 今後の展望

○ 障害者は必ずしも「支援を受ける存在」とは限らない。
○ さんさんグリーンのメンバーは「地域を支える存在」であり、これからもさんさんグリーンだからできる仕事を続けていきたい。

6次
産業化

# 京都府八幡市
## 株式会社 おさぜん農園



## いちごビジネスへの挑戦

## 取組内容

○ 京都府内でいちご観光農園を開設し、いちご狩りの楽しさを味わっていただく場を提供。また、「こんなところに、いちご畑」をコンセプトに、大型商業施設や幼稚園等でいちご狩り体験ができる「いちごの庭プロジェクト」を実施。
○ 夏いちご栽培を始めたことにより、周年収穫が可能になり、集客が拡大。
○ いちごジャムやビネガーのほか、いちご大福やクロワッサンなど新製品を開発。
○ いちごを通じた食育・新規就農者の育成・事業参入や輸出に至るコンサルティング事業など、多角的経営を展開している。

## 取組に至った経緯

○ 梨農家を継承し就農後、農地の一部をいちご農園に転換。規模拡大とともに、平成24年に法人化し、加工品販売等の6次産業化に取り組む。コロナ禍をきっかけに密にならないいちご狩りスタイルを導入。
○ 大手企業と連携し、年中観光農園経営が可能となる夏いちご栽培技術を開発。



街中で気軽にいちごの摘み取り体験ができる「いちごの庭プロジェクト」



（上）いちごの香りが広がる「いちごラスク」
（下）昔ながらの製法で丁寧に作られた「いちご飴」

## 取組の成果（受賞等）

○ 6次産業化総合化事業計画の認定。
○ ソーシャル企業認証の認定（（一社）ソーシャル企業認証機構）。

## 今後の展望

○ 経営の多角化、採算性の向上により経営の安定化を図るとともに、高級志向の需要先のニーズに応える高品質かつ多彩な商品を開発し、認知度向上を目指す。
○ 新規就農支援や食育に関心があり、課題解決に向けた事業を検討。

# 大阪府池田市
# 大阪府立園芸高等学校

6次産業化

実践的で高度な専門技術、知識習得を目指す！




## 取組内容

〇令和3年度に文部科学省のスマートスクール事業を活用して最新の温室設備・実験設備を導入し、令和4年度から温度や二酸化炭素等複数の環境をコンピュータにより制御しながら、いちごやカーネーションの高設（養液）栽培を開始。
〇自校産及び購入したいちごでジャムを製造し販売する、6次産業化にも取り組む。
〇令和3年度より、株式会社大黒屋と連携し、本来なら廃棄する規格外の農産物を使用した特製ソース「ソースの樹」の販売を行っている。また、池田市固有の温州ミカンである「池田ミカン」の栽培に16年前から取り組んでいる。池田ミカンは、収穫直後は酸味が強いので室で熟成させる昔ながらのミカンだが、甘さを好む現代では栽培本数を減らしてきた。しかし、柚子胡椒を生産・販売する株式会社柚子辛凛と連携し、池田ミカンの青ミカンを加えて酸味を活かした柚子胡椒の商品化に成功し、販売を行っている。

## 取組に至った経緯

〇地域や企業、大学、行政との連携・協働による実践的な学びを積極的に推進し、農業・園芸・造園や食品関連産業、行政機関・教育機関等幅広い分野で活躍する人材を育成。
〇野菜や果樹等の栽培管理や緑化、食品の栄養・分析・加工などについての専門的な知識や技術を学習し、こうした学びを実践に繋げる活動として取り組む。



生徒が製造したジャム


ハウスで栽培中のいちご

## 今後の展望

〇製造・販売する加工品の原料となる農産物をできるだけ自校産で賄えるようにしていきたい。
〇地域や企業等と連携・協働し、農産物の加工製造時に発生する残渣等を活用した新たな食品の製造（アップサイクル）や、培土としての活用（リサイクル）を行う等、生徒が主体的に SDGs を意識した取組を実施。



開発した柚子胡椒


特製ソース「ソースの樹」

# 兵庫県淡路市
## 淡路島ワイナリー合同会社



6次産業化

ワインを淡路島の新しい地域ブランドへ

Awajishima winery complex

## 取組内容

○ 淡路島ワイナリー合同会社は、淡路市でワイン用ぶどう栽培・ワイン販売に取り組んできた農園代表とレストランを経営するシェフが共同で、令和4年4月に設立。
○ ワイナリー、カフェ＆レストラン、ショップを併設した「Awajishima winery complex」を令和6年3月にオープン。自社を含む北淡路地域で栽培されたワイン用ぶどうを使用したワインの醸造・販売、自社栽培の野菜・ハーブを含む淡路島産の食材を使用した料理の開発・提供を行っている。（2025年産ワインの製造本数は約8,000本）
○ ワインを特産品としてブランド化するとともに、北淡路地域の関係人口・交流人口の拡大を目指している。

## 取り組みに至った経緯

○ 平成31年から淡路市でワイン用ぶどうの栽培に取り組み、他県のワイナリーにワイン醸造を委託していたが、輸送コストと委託醸造費を削減し、収益の向上を図りたいと考えた。



## 取り組む際に生じた課題と対応

○ ワインの売れ行きが良く、一時期在庫切れとなったため、ワイン用ぶどうの栽培面積を拡大するとともに、醸造機器を追加で整備。
○ ワイン用ぶどうの品質・収量安定に向け、レインプロテクション（雨除け）を導入。
○ 「Awajishima winery complex」がGoogleマップに表示されたことと、インスタグラムでレストランメニューやイベント等の情報発信を行うことで、集客が安定。



## 今後の展望

○ ワイン用ぶどうの収量を増やし、ワインの製造本数を拡大することで、お客様の需要に応えていきたい。
○ お客様にもっとワインペアリングを楽しんでいただけるよう、ワインのラインナップを拡充したい。

# 奈良県五條市
## 株式会社堀内果実園

6次産業化




## 取組内容

○　創業は1903年で、120年以上に渡って受け継がれてきた園地を代々守り続けている。
○　土づくりから商品販売までを一貫して行っており、現在、約12haの園地において、樹齢100年を超える「百年柿」をはじめ、たねなし柿や富有柿を中心に、梅、ブルーベリー、りんご、すもも、かりん等を栽培。
○　果物本来の自然な美味しさを追求し、こだわり抜いて栽培した果実は、新鮮な青果としてはもちろん、果物そのものの味わいを楽しめる加工品としても提供。

## 取組に至った経緯

○　2002年、収益の拡大と雇用を生み出す農業の実現を目指して加工場を整備し、加工品の製造を開始。翌年には小売展開をスタートし、以降、売上高は着実に拡大。
○　2013年、法人化。
○　2015年には台湾向けに「あんぽ柿」の輸出を開始。現在では香港、シンガポール、マレーシアへと販路を拡大している。
○　2017年には奈良市内にカフェを併設した直営店を開業。以降は大都市圏への出店も進め、大阪市内に1店舗（グランフロント大阪店）、東京都内に2店舗　（渋谷スクランブルスクエア店、東京ソラマチ店）を展開。さらに、2025年には、五條市に食のテーマパーク「Land」を、イオンモール橿原に「TEA　PARLOUR」をオープン。


6代目となる
堀内俊孝 代表取締役


とろりとした食感と、凝縮された
やさしい甘さが特徴の「あんぽ柿」

## 取組の成果（受賞等）

○　2019年：アグリフードEXPO「輝く経営大賞」受賞
○　2020年：にっぽんの宝物 奈良県大会「ドリンク・スイーツ部門グランプリ」受賞
○　2021年：にっぽんの宝物 全国大会「スイーツ部門グランプリ」受賞

## 今後の展望

○　地元で活躍する生産者や事業者と連携し、五條市へ人を呼び込むことで地域の活性化につなげたい。
○　雇用就農を通じて人材を育成し、丹精込めてつくった果物や加工品をより多くの方に届けられる体制を整備したい。

# 和歌山県北山村

## 株式会社じゃばらいず北山

6次産業化

# 北山村特産のじゃばらを活用したブランド化推進の取組





広がる商品ラインナップ

## 取組内容

○ 北山村特産のじゃばらを活用した加工品の開発、製造、販売等の事業を行っており、令和5年に完成した新加工場では新設した充填ラインで、新たに瓶・缶・ペットボトルの製造が可能となる。令和7年2月、食品安全マネジメント規格 「JFS-B」認証を取得。
○ 民営化により食品展示会に積極的に参加し、バイヤーやメーカーなどと商談を行うことで、販路の拡大に成功。
○ 大手メーカーで品質管理を担当していた者を雇用することにより、工場の品質管理レベルは大手メーカーに引けを取らないレベルまで向上し、その結果、村営時代では取引ができなかった大手飲料メーカーとのコラボが実現。
○ 大手製菓会社への原料供給やじゃばら加工品の海外への輸出により事業が拡大し、「邪払のど飴」は、全国のコンビニ、ドラッグストア、スーパーマーケットでの販売展開により、北山村産じゃばらの認知度が向上。
○ 令和4年度に、株式会社じゃばらいず北山、北山村役場、北山振興株式会社、じゃばら生産協同組合の4者で、「じゃばらが照らす北山村協議会」を設立。北山村のブランド化に向け、じゃばらや日本唯一のアクティビティである観光筏下りなど、北山村の魅力を大型イベントや食品展示会などでPR。
○ じゃばらの果皮や果実に含まれる成分を活かし、その魅力や特性に着目した新ブランドとして、アロマや石鹸を商品化。

## 取り組みに至った経緯

○ じゃばらの特産品化を目指し、長年北山村直営事業として運営してきたじゃばら事業の継承と更なる発展を目指し、令和元年に北山村が100%出資して株式会社じゃばらいず北山を創業。



じゃばらは香酸柑橘の一種で、古来より北山村のみに自生していた希少性の高い品種

## 取組の成果（受賞等）

○ 近畿農政局「ディスカバー農山漁村」の宝（第8回）選定

## 今後の展望

○ 新商品の開発や販路開拓を積極的に進め、売上拡大を目指し、その成果を雇用創出や従業員の待遇改善に繋げ、より安定した「じゃばらビジネス」を確立することで、持続可能な地域社会の実現を目指していきたい。
　また、商品販売を起点とした北山村のPR活動にも一層力を注ぎ、「じゃばら」を通して、日本唯一の観光筏下り体験など、北山村の魅力を広く発信することで、交流人口の増加、ひいては地域経済の活性化に貢献していきたい。

# 京都府笠置町

## 株式会社RE-SOCIAL

鳥獣被害対策・ジビエ




## 取組内容

○ ジビエ事業の「やまとある」の他、骨や内臓、角を活用するペットフード事業「GOOD MEAL ONE」、皮をレザー製品へと生かす事業「COL STYLE」、ジビエレストラン「NATURAL BAL MEAT UP」を京都市東山区で運営し、「狩猟→解体→精肉→加工→飲食提供」まで一気通貫、ワンストップで手がける。
○ 令和2年12月に「ハラール認証」を取得し、中東だけでなく、アジア・太平洋地域からのインバウンド需要にも幅広く対応。
○ ペットフード製造を増やし、令和8年から輸出を開始。



ジビエレストラン
「NATURAL BAL MEAT UP」

## 取組に至った経緯

○ 学生時代に地域課題を学ぶ中で、獣害対策により捕獲された鹿や猪が利用されずに山中に埋却される光景を目にし、この現状をビジネスとして解決できないかと考え、起業を決意。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 捕獲した鹿を生きたまま捕獲場所から加工場まで運ぶ「生体搬送」により鮮度と衛生管理にこだわった新鮮な肉を提供。

## 取組の成果（受賞等）

○ 令和3年　第9回 京の公共人材大賞最優秀賞受賞
○ 令和5年　KYOTO Next Award 2023最優秀賞受賞
○ 令和7年　京都府農林水産功労者表彰受賞



ハラール認証

## 今後の展望

○ 海外での展開拡大及び、新しい拠点を作り事業拡大を目指す。

# 京都府八幡市
## かみむら農園

有機農業



超プレミアムな有機イチゴを生産・販売

## 取組内容

○ 平成22年に新規就農後、平成29年には八幡市初の有機JAS認定農家となり、有機栽培によるきゅうりや大根、にんじん、米のほか、有機イチゴの生産に取り組む。
○ 有機いちごを使用した加工品の全国展開に挑む。

## 取組に至った経緯

○ 板前や自動車販売の営業などさまざまな職種を経験。義父が作った野菜の味に感動したことをきっかけに、自分も美味しい野菜を作りたいとの想いから京都府内の有機農業者の元での修業を経て就農。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○ 義父が所有する3aの農地から始め、現在は255a(ハウス6棟30aを含む)に規模拡大。
○ イチゴの有機栽培では、芳醇な香りと味にこだわり、竹粉を乳酸菌発酵させた肥料を施用したり、有機JASで認められた昆虫を使用し、受粉や害虫対策を行う。
○ 新品種「東京おひさまべりー」を加工したジャムの6次化に取り組むなど、需要に応じて経営規模の拡大を図った。




全国的にも珍しい有機イチゴ「瑠璃の宝箱」

## 今後の展望

○ 経営規模を拡大し、有機野菜を学校給食でも利用してもらえるよう出荷量の確保を目指す。
○ 有機農産物の認知度向上を図る啓発活動を行うとともに、後継者の育成に取り組む。

# 奈良県山添村
## 自然派農場しもかわ



女性農業者

れんこんを愛しすぎて！

## 取組内容

○「自然派農場しもかわ」は、2011年に生業としての農業を起業。子供に認めてもらう野菜づくりをモットーに、化学農薬や化学肥料の使用を控え、れんこんを主体に西洋野菜や大和野菜を栽培しており、「れんこんの収穫体験」や「流しそうめんと夏野菜収穫体験」などの農業体験も行っている。
○　農林水産省の農業女子プロジェクトメンバーであり、奈良県の女性農業者グループ「和母（わはは）」の代表としても活躍している。



れんこん掘り体験

## 取組に至った経緯

○　夫の実家で、義理の両親の家庭菜園を引き継ぎ、自家消費を目的に農業を始め、自分が育てた野菜を自分の子どもが食べて「ママの野菜は世界一おいしいね」と言ってくれたことが嬉しく、作るならとことんこだわろうと思い、少しづつ面積を広げ、環境に優しい農法で農業を続けてきた。

## 取り組む際に生じた課題と対応

○　ひとりで農業をしていると孤独であり、また、近所は高齢化が進み、同世代は働きに出ているので、相談する相手もおらず、農業を始めたころはつらい毎日であったが、「和母」等の団体に参画したことで、ネットワークができ、経営相談や情報交換などの交流の場として、前向きに取り組むことができている。

## 今後の展望

○　れんこんを使った加工品（れんこんパウダーや干しれんこん）の販売に力を入れていきたい。
○　ホテル等の宿泊施設と協力し、農業体験付きの宿泊プランを用意しており、農業体験への参加人数を増やしていきたい。
○「和母」メンバーが生産した農産物が揃うマルシェを定期的に開催したい。

# 和歌山県かつらぎ町
## 株式会社やまやま

地域振興

# 無添加グミから始まった株式会社やまやまの挑戦



代表取締役
猪原有紀子さん

ブルーベリー農園

## 取組内容

○ 自宅近くにある耕作放棄地を約2年半かけて整備し、令和4年1月には、キャンプ場を併設したブルーベリーと原木シイタケの観光農園「くつろぎたいのも山々」を開設。
○キャンプ場は子育てファミリーがストレスなくくつろげるよう設計され、スタッフの手厚いサポートにより、親子が安心して過ごせる環境を提供しており、その結果、来園者の満足度やリピーター率は高い水準を維持している。
○ ブルーベリーはポット養液栽培で、収穫期は6月から8月、原木シイタケの収穫体験は冬季のみ実施。
○ 畑で廃棄される果物や規格外の果物を買い取り、子どもたちが安心して食べられる自然素材の無添加グミとして加工・販売。買取対象の果物は、かき、いちご、なし、りんご、いちじく、キウイフルーツ、不知火、ネーブルなどで、未利用の廃棄果物に新たな価値を生み出している。
○ 廃棄果物の活用によるフードロス削減に加え、無添加グミの製造・梱包・発送を障がい者福祉施設に委託することにより、農福連携等を通じた社会課題の解決にも寄与している。

## 取り組みに至った経緯

○ 子育てをする中で、子どものおやつに含まれる添加物の多さや育児によるストレスに悩んだ経験から、子どもが安心して食べられる自然素材のグミの開発や、子育て中の母親がストレスなく子どもと過ごせる観光農園をつくりたいと考え、大阪市内からかつらぎ町に移住し、就農。



キャンプ場と観光農園を運営する
「くつろぎたいのも山々」

## 取組の成果（受賞等）

○ かつらぎ町の美しい自然や特産物である果物といった地域資源を活用しながら、顧客ニーズに応える魅力的なサービスを生み出す地域マーケティングに成功。

## 今後の展望

○ 廃棄される果物を活用し、和歌山県内で農家・障がい者福祉施設・親子をつなぐトライアングルを構築できたことから、今後はアメリカへの輸出を見据え、FDA（米国食品医薬品局）の認証を取得し、無添加グミの世界展開を目指したい。